

令和 2 年度（令和元年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

令和 2 年 9 月

網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、令和元年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

令和2年9月

網走市教育委員会 教育長 三 島 正 昭

目 次

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	「平成31年度教育行政推進方針」についての点検	
1	総評	2
2	事業の点検	2
	[学校教育の推進]	
1	幼児期に身につけるべき基礎の育成	2
2	確かな学力の育成	3～ 4
3	豊かな人間性の育成	5～ 6
4	健やかな体の育成	7～ 9
5	支援が必要な子どもに対する教育体制の充実	9～11
6	学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	11～13
7	学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現	13～17
	[社会教育の推進]	
1	生涯学習	18～24
2	社会教育	24～30
3	家庭教育	30～31
4	芸術文化	32～41
5	文化財	42
6	スポーツ	43～47
7	国際化対応	48
III	教育委員会の活動状況	
1	教育委員の就任状況	49
2	教育委員会議の開催状況	49～50
3	その他の主な活動	51
4	教育委員による自己点検	52～55
IV	外部評価報告書	
1	総評	56
2	教育委員会の活動を大学の視点から検証する	56～58
3	社会教育の推進	59～60

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、平成20年度から、すべての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第26条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

令和元年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

令和元年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け教育委員会において実際に管理・執行している事務として、平成31年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取り組み実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により令和元年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、東京農業大学生物産業学部 教職課程 後藤広太郎准教授と、元網走市社会教育委員 山本成治氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」、「網走市教育行政推進方針」、「令和元年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ 「平成31年度教育行政推進方針」についての点検

教育行政推進方針は、毎年、市議会第1回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

平成31年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

1 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。

こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えますが、令和元年度においては新型コロナウイルス感染症の拡大により、2月以降は学校では休校、施設においては休館せざるを得ない状況となり、各事業の実施について一部影響がありました。

2 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

1 幼児期に身につけるべき基礎の育成

項 目	幼児教育振興補助事業（教材教具補助金）
	平成24年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

項 目	私立幼稚園特別支援教育振興補助事業（障がい児教材補助金）
	平成24年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

2 確かな学力の育成

項 目	小学校 I C T 教育環境整備事業（拡充）
目 的	授業での I C T 機器の利用を促進し、良好な学習環境を作る。
取組実績	タブレット端末269台を整備 55,620千円
成 果	各普通教室でタブレット端末が使用可能となり、授業の円滑な運営および改善が図られた。
課 題	タブレットパソコンを有効かつ効果的に活用した学習指導の促進。
今後の方向性	時代に即した I C T 機器の整備と活用に努める。

項 目	小中学校 I C T 教育環境整備事業[高速大容量通信ネットワーク整備]（新規）
目 的	G I G A スクール構想の実現のため、高速大容量通信ネットワークと電源キャビネットを整備する。
取組実績	国の補正予算で対応した。：小学校 89,000 千円、中学校 59,000 千円
成 果	事業の完了が見込めないため、事業費の全額を令和 2 年度に繰り越した。
課 題	令和 2 年度中の早期に整備を図ることとしているが、全国的な需要による資材不足が懸念される。
今後の方向性	令和 2 年度の早期に整備する。

項 目	学力向上対策事業（継続）
目 的	児童生徒の学力の実態を把握するとともに、効果的な授業や対応を推進し、学力の向上を図る。
取組実績	比較・分析が可能な学力テストの実施：小学校 1,051 千円、中学校 831 千円
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、学力の継続的把握が可能となった。
課 題	継続して実施し、効果的な指導法等について分析する必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	教材・教具の整備〔教師用指導書整備〕（拡充）
目 的	小中学校の教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	・ 知能検査：小学校 112 千円、中学校 24 千円 ・ 教材費等配当：小学校 5,956 千円、中学校 5,064 千円 ・ 義務教育教材の整備(市単費)：小学校 5,403 千円、中学校 4,853 千円 ・ 理科教育教材の整備(国補助)：小学校 3,493 千円、中学校 2,809 千円 ・ 通知票、卒業証書の印刷：小学校 487 千円、中学校 366 千円
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。
課 題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく

項 目	国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置増員〕（拡充）
目 的	中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「外国語指導助手（ALT）」を配置し、生きた英語に触れることにより、生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	・外国語指導助手（ALT）の配置（2名） ・小学校9校、中学校6校を訪問・指導 ・英語能力コンテスト等への協力 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・地域における国際交流への協力
成 果	ALTの生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られている。
課 題	ALTの来日当初は、うまくコミュニケーションが図れない場面もあることから、3年程度の継続雇用が必要と考える。
今後の方向性	2020年度からの小学校での外国語の教科化に合わせ、ALTを1名増員し2名体制としたが、この体制を維持していく。

項 目	学習支援員配置事業（継続）
目 的	市費負担による算数・数学における教員を配置し、習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	退職した教員や、免許所有者を嘱託職員として雇用し、市立小学校4校、中学校2校に配置し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成 果	きめ細かな指導が可能となり、基礎・基本の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課 題	道教委加配による少人数指導と連携した、より効果的な活用法の検討が必要。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

項 目	あばしり寺子屋開催事業（継続）
目 的	小学1～3年生を対象に学生ボランティアによるサポート授業を行い、参加児童にとって必要な学力を見極め、「確かな学力」を身に付けさせる
取組実績	東京農業大学生物産業学部 学生ボランティア 実施回数6回 延べ参加人数 1年生39名、2年生30名、3年生27名 その他4名 計100名
成 果	低学年からの学習習慣の定着
課 題	参加する児童のニーズに応じた学習内容の設定。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の学力向上に努める。

項 目	キャリア教育の充実
目 的	児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。
取組実績	2020年4月より全ての小中学校で「キャリアパスポート」の導入を行う。
成 果	キャリアパスポート用ファイルの購入（小学校1700部、中学校870部 ※予備含む）
課 題	各学校でどのような教科、内容で取り組みを進めるか検討が必要。
今後の方向性	毎年新小1に対してキャリアパスポート用ファイルの整備を行い、キャリア教育の充実を図る。

3 豊かな人間性の育成

項 目	教材・教具の整備〔学校図書・社会科副読本編纂〕（継続）
目 的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。また、社会科副読本を改訂し、新学習指導要領に対応する。
取組実績	文科省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数及び鮮度を考慮し、各学校へ予算を配当：小学校 2,910 千円、中学校 1,940 千円 また、H30 年度より図書館で利用する消耗品の購入費として、各校 10 千円を配当 社会科副読本については編集委員会により内容の改訂を行い、印刷を行った。
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。 小学校 1,972 冊購入、中学校 1,385 冊購入 社会科副読本については、新学習指導要領に対応した小学校 3・4 年生用社会科副読本「あばしり」の改訂を行った。
課 題	図書の劣化や破損に対する対応や必要な古書の見極めが必要である。
今後の方向性	平成 31 年度末の図書整備基準冊数達成率は、小学校全体で 103.1%、中学校全体で 111.5% となっている。引き続き基準冊数を保持しながら、鮮度を考慮した古書・毀損（きそん）図書の更新に努める。社会科副読本の次回改訂においても資料や写真の掲載方法を工夫することで、児童が意欲的に学習する副読本の作成を行う。
項 目	学校図書館司書の配置（継続）
目 的	学校図書館に学校図書館司書を配置し、図書館整備・活用促進を図ることで、児童生徒の読書への関心を高め、基礎学力の向上を図る。
取組実績	司書資格を有する者を配置することにより、学校図書館資料の管理や整理、児童生徒に対する読み聞かせ、学校図書館に関する教育指導への支援を行う。 平成 25 年度から学校図書館司書 1 名を小学校 3 校にモデル的に巡回配置。平成 27 年度は 3 名体制として司書教諭不在の状況を解消、平成 29 年度よりさらに増員して 4 名体制として、司書教諭配置校にも巡回を行い連携して読書への関心を高める取組みを推進している。
成 果	本の整理・分類整備が進み、貸出冊数の増加や高学年の利用が増えるなど、児童生徒の読書への関心が深められた。
課 題	引き続き児童生徒の読書への関心をより向上させるための検討が必要。
今後の方向性	今後もすべての学校へ巡回配置を行い、事業を継続していく。
項 目	読書感想文コンクールの実施（継続）
目 的	読書感想文コンクールを開催し、読書活動の推進を図ることで児童生徒の読書意欲を高めて、自分の考えを文章で表現する力を身につけさせる。
取組実績	応募期間 令和元年 7 月～10 月末日 応募対象 網走市内小中学校に在学する児童生徒 応募区分及び応募作品数 （小学校）第 1 学年の部 101 点、第 2 学年の部 282 点 第 3 学年の部 281 点、第 4 学年の部 265 点 第 5 学年の部 253 点、第 6 学年の部 240 点 （中学生）第 1 学年の部 242 点、第 2 学年の部 252 点 第 3 学年の部 28 点 審査の結果、令和元年 12 月 14 日に表彰式を実施し、入賞作品文集を発行した。
成 果	児童生徒の「書いて表現する活動」「自分の考えを持ち、文章で表現する活動」としての向上が図られた。
課 題	選書、応募期間など、児童生徒が取り組みやすい実施方法の検討が必要。
今後の方向性	学力向上策の一つとして、今後も継続していく。

項 目	網走市子ども会議の実施（継続）
目 的	いじめの根絶や命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめの問題への取組の一層の充実を図る。
取組実績	児童会や生徒会（又は児童会や生徒会の役員）等がいじめ問題の解決や人間関係づくりに取り組んだ内容の交流や、いじめの根絶・命の大切さなどについての意見交流を行った。 参加者 小学校 29 名 中学校 35 名
成 果	小学校、中学校毎のグループで意見交流を行い、取り組んでみて良かった点や課題解決に向けての意見を共有し、自校の活動の参考となっている。
課 題	特になし。
今後の方向性	引き続き実施する。

項 目	学校教育指導奨励諸補助負担金〔合同観劇事業補助〕（継続）
目 的	児童に優れた芸術文化を鑑賞させることにより、豊かな表現力と情操教育の充実を図る。
取組実績	網走市合同観劇実行委員会が実施する網走市内小学校合同観劇事業に対し、児童の鑑賞料金の半額を補助 事業内容 株式会社「笑う猫」による演劇鑑賞（市内 10 校 8 会場） 参加者 市内小学校児童 1,614 名（当日欠席 41 名）
成 果	優れた芸術に触れることで児童の感性を高め、豊かな情操や多様な価値観を養うことができた。 芸術鑑賞を通して様々な表現を学ばせることで子どもの表現活動に生かすことができた。
課 題	特になし。
今後の方向性	引き続き実施する。

項 目	いじめ対策事業（継続）
目 的	いじめの実態を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導に役立てる。また、講演会や啓発資料の作成を通して、児童生徒、学校、保護者へいじめ問題への取り組みの重要性を広める。
取組実績	・スクールカウンセラーを活用した学校への指導、助言。 ・いじめ防止ポスターの作成。
成 果	いじめ問題の取組について、普及・啓発が図られた。
課 題	「いじめはどんな理由があっても許されない」とする意識と態度の醸成。
今後の方向性	児童生徒一人一人がいじめ問題の認識を持ち、学校全体で未然防止の取り組みが出来るよう必要な支援を行っていく。

4 健やかな体の育成

項 目	学校プール管理事業（継続）
目 的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う。（小学校7校）
取組実績	・市内7校（網走、中央、西、南、潮見、東、白鳥台小学校） ・プール管理人を各校1名配置（委託先：シルバー人材センター） ・プール環境の点検も管理人が実施（水質、水温、室温等） ・定期検査実施（学校薬剤師と市1名で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等点検） ・児童が使用する際は、委託の管理人の他に教師2名を配置し監視する。 ・プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施。
成 果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課 題	施設の老朽化が進んでおり、施設維持のためのメンテナンスが課題である。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項 目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目 的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童生徒の心身の健全な発達を図る。
取組実績	スケートリンク等設置で補助 4校（網走小、東小、白鳥台小、西が丘小）
成 果	スケート授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。 白鳥台小学校は、雪不足により途中中止
課 題	スケートリンクの造成はPTAの方々による協力が多大であるが、リンクの造成に負担がかかっている。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる子どもたちの心身の健全な発達を図っていく。

項 目	学校給食運営事業〔施設・備品の整備、衛生管理〕（継続）
目 的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	・設備・備品の主な修繕・更新の実施状況 給食運搬車用車庫整備（第二中 405千円） 給食調理場ボイラー整備（東小 471千円） 給食室内ボイラー修繕（東小 201千円） 給食調理用ミキサー購入（中央小 295千円） ・学校給食従事職員研修会（年1回） ・学校給食巡回指導の実施（年3回、栄養教諭の配置がない3校へ） ※保健所による検査 年1回 ・給食調理員の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施。 ・児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応。
成 果	衛生管理に努め、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に供給し、健やかな身体の成長を図ることができた。
課 題	継続して施設改善・備品等整備・衛生管理等に努めるとともに、児童生徒に安全で安心な学校給食を提供していくための調理体制の検討が必要である。
今後の方向性	今後も施設設備の維持修繕・更新を進めていく。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全で安心な学校給食を供給していく。

項 目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目 的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。地場産物を活用した給食を実施し、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	・ 栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭 5 名配置） ・ 「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施し、希望校においては生産者講話を実施。（メニュー：ご飯、鮭ザンギ丼、ごぼう入りすりみ汁、牛乳） ・ 地元産業や地場産物への理解を深めるため、網走産行者菜やあばしり和牛を使用した給食の実施。 ・ 学校給食用パンへの網走産小麦 100%使用。 ・ 鯨食文化の理解を深めるために、鯨肉を使用した給食の実施。 ・ 野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした野菜の日給食の実施。
成 果	食育の推進や地元食材を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。また、栄養教諭未配置校においても食に関する指導を実施し、食育を推進するための体制が整備された。
課 題	生産者や流通などの関係機関との連携体制の構築。
今後の方向性	・ 栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。 ・ 地元食材を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」等の地場産品普及事業を継続して実施していく。

項 目	児童生徒の健康管理事業（継続）
目 的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行う。
取組実績	・ 新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 ・ 在籍する児童生徒を対象とした各種健診の実施（尿検査、結核健診、脊柱側湾症検査、眼科健診、耳鼻咽喉科健診、心臓健診）
成 果	健康診断を実施することにより、児童生徒の健康管理が図られている。
課 題	医師会との連携、各種健診における学校との日程調整及び学校外で実施する健診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の健康管理の推進に努める。

項 目	子ども体力づくりサポート事業（継続）
目 的	市内の小学校に通う児童が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、運動習慣の定着や基礎体力の向上を図り児童の体力づくりの向上に資する
取組実績	学校法人日本体育大学と連携し、市内小学校へ講師を派遣 潮見小学校（第 5 学年～第 6 学年）、東小学校（全学年）
成 果	専門的な指導のもと、児童の体力向上に関する興味関心の増大や、教員の指導方法の向上につながることができた。
課 題	教員の指導手法や児童の体力向上に対する興味づけなどを市内全校に広げていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の体力向上を図る。

項 目	タグラグビー大会の開催(継続)
目 的	タグラグビー大会を開催することにより、児童の健全な発達・成長を促し、体力向上を図ることを目的とする。
取組実績	参加児童 小学生(第3学年～第6学年) 15チーム、102名
成 果	タグラグビーへの取り組みを通して、身体的な能力の向上、健康的な体づくりを図った。
課 題	市内全ての小学校が参加できるよう呼びかけを行っていく必要がある。
今後の方向性	ラグビー協会の協力をいただき各学校におけるタグラグビーの取り組みを積極的に行っていく。今後も継続して大会を開催していく。

項 目	中学校体育文化振興事業補助(拡充)
目 的	生徒が対外試合やコンクール等に参加する場合に、経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、体育・文化活動の振興を図ることを目的とする。
取組実績	補助実績 11,000千円
成 果	学校外における体育・文化活動を通じ、生徒の健全な心身の育成を図り、中学校教育の充実に寄与した。
課 題	保護者の負担軽減を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

5 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

項 目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費、施設・備品等整備〕(継続)
目 的	特別支援学級、通級指導教室(ことばの教室)の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	・特別支援教育費学校配当：小学校9校2,157千円、中学校5校971千円 ・既存特別支援学級教材備品の整備：小学校9校(39学級)1,009千円 中学校5校(18学級)597千円 ・通級指導教室(ことばの教室)への教材費等配当：小学校1校(1教室)380千円
成 果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課 題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	増加・多様化する支援の必要な児童生徒に対し、個々の特性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。

項 目	特別支援教育研修事業(継続)
目 的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	・特別支援研修会の開催(8月26日/エコーセンター)参加者58名 ・各種研修講座の案内
成 果	研修会の開催をはじめ、北海道のパートナーティーチャー派遣制度を活用するなど、研修機会を増やすことにより、担当教員のより専門的な知識の習得と資質の向上が図られている。
課 題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項 目	特別支援教育支援員の配置（拡充）
目 的	教育上特別な配慮を要する児童生徒の特別支援教育推進のため、通常学級及び特別支援学級に支援員を配置する。
取組実績	支援員の配置：小学校 5 校・21 名、中学校 3 校・4 名 実態に合わせ勤務時間を延長した。
成 果	支援員を配置することにより、特別支援学級等でのより円滑な学級運営が図られた。
課 題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、より充実した授業を行うため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	毎年度、各学校の実情に応じて支援員の配置を見直し、限られた職員体制の中で効果的に特別支援教育が実施されるよう、その充実に努める。

項 目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目 的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	・相談室の開設（相談員は教育から 1 名、福祉から 2 名を配置） ・相談延べ件数：185 件
成 果	相談員が学校や関係機関との連絡調整を図りながら、問題解決に向け指導・助言を行っている。
課 題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、日常的な情報交換や対応協議の場を充実し、更に連携を深める必要がある。保護者と情報を共有し、歩調を合わせた児童生徒への指導のあり方が課題である。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・関係機関が連携して適切に対応していくよう相談室の充実を図る。

項 目	スクールカウンセラーの配置（継続）
目 的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	・市内小中学校の児童生徒のスクールカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施。 ・相談数 年間 303 回、1,234 時間
成 果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言により的確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課 題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	不登校児童生徒への支援の充実〔適応指導教室運営事業〕（継続）
目 的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、適応指導、学習指導などの指導援助を行い、集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、適応指導教室を設置する。
取組実績	・ 適応指導教室指導員の配置（1 名） ・ 適応指導教室「クリオネ学級」の開設・運営（毎週月～金曜日 午前 9 時～午後 3 時） ・ 通級児童生徒数 H31 年度 9 名（小学生 2 名、中学生 7 名）
成 果	教育相談や適応指導、学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られている。
課 題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、学校生活への復帰に向けてそれぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさもある。
今後の方向性	現在も不登校児童生徒がいることから、一人でも多くの児童生徒が学校復帰できるよう適応指導教室の充実を図る。

項 目	学級集団状況把握事業〔Q-Uテストを活用した学級集団状況把握〕（継続）
目 的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	・ Q-Uテスト（楽しい学校生活を送るためのアンケート式心理テスト）を小学校 4 校（中央小、西小、南小、西が丘小）、中学校 3 校（第一中、第三中、第五中）で実施した。
成 果	Q-Uテストの結果を、学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決を図ることができた。
課 題	継続してテストを実施し、データを蓄積することで、より確実な対応が可能となるので、小中連携の充実が必須となる。
今後の方向性	今後も事業を継続し、より安定した学級経営を図る。

6 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

項 目	学校開放運営事業（継続）			
目 的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放しスポーツ・文化活動の場として活用する。			
取組実績	網走小学校	519名	第 1 中学校	1, 667名
	南小学校	1, 155名	第 2 中学校	220名
	潮見小学校	29名	第 3 中学校	714名
	中央小学校	962名	第 5 中学校	230名
	西小学校	1, 513名	呼人小中学校	508名
	東小学校	146名	※合計 年間延べ7, 663名	
	成 果	年間を通じ多くの市民の利用があり、スポーツ活動の場となっている。		
課 題	利用者の増加とともに、希望日に利用できない場合が増えている。			
今後の方向性	スポーツ・文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。			

項 目	学校教育指導奨励事業（継続）
目 的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助し、各校の公開研究会実施を支援した。
成 果	指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られ、実践研究成果の普及に努めている。
課 題	教員の授業力向上が児童生徒の学力向上に結びつくよう研究内容の更なる改善を図っていく。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上・児童生徒の学力向上に努める。

項 目	コミュニティ・スクール推進事業（新規）
目 的	学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクールの導入を行う。
取組実績	CS説明会（R1.9.27開催）：参加者83名 導入校 令和元年度 西部地区学校運営協議会（西が丘小、第五中） 東部三校学校運営協議会（東小、白鳥台小、第四中） 呼人地区学校運営協議会（呼人小、呼人中）
成 果	先行実施校において学校運営協議会の活動が開始した。
課 題	各学校においてどのように地域との連携を図るか今後の取組内容の充実が必要
今後の方向性	令和2年度より、全ての網走市立小中学校においてコミュニティ・スクールを導入する。

項 目	奨学資金貸付事業（継続）
目 的	能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学困難な学生に奨学金及び入学準備金を貸付け、社会の有用な人材を育成することを目的とする。
取組実績	・資金貸付状況 3件 660,000 円 大学・専門課程（月額 18 千円、入学準備金 120 千円） 2 件、552,000 円 高校・高等課程（月額 9 千円、入学準備金 60 千円） 1 件、108,000 円 ・償還金収納状況 1,418,600 円 現年度分 776,800 円（収納率 83.9%） 滞納繰越分 641,800 円（収納率 4.6%）
成 果	収入基準は、学生支援機構の 1.1 倍に設定し、更に収入基準の 130%超過まで認定するなど、間口を広げることにより利用の拡大を図っている。
課 題	貸付償還金の滞納者が増加し、制度の運用に影響が及ばないよう、新規滞納者を増やさない等の収納率向上に向けた取り組みが必要である。 経済的理由により就学の機会を失うことがないよう、制度の周知を図っていく。
今後の方向性	制度の周知を積極的に行い、利用の拡大を図っていく。 今後も事業を継続していく。

項 目	大学給付型奨学金事業（継続）
目 的	向上心があり、学業成績が優秀な学生であり、経済的理由により就学困難と認められる者に対し、奨学金等を支給し、社会の有用な人材を育成する。
取組実績	・ 資金給付状況 2 件 2,400,000 円 大学（月額 100 千円） 2 件、2,400,000 円
成 果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課 題	特になし。
今後の方向性	企業からの寄付を原資としているため、新規受付は平成 30 年度で終了。

項 目	小中学校就学奨励事業（継続）※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目 的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒もしくは入学予定者の保護者に対し就学に要する経費を援助することにより、すべての児童生徒が義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。
取組実績	・ 学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、給食費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、PTA 会費、クラブ活動費の援助。 ・ 要保護者に対する修学旅行費の援助。 ・ 学校保健安全法第 24 条及び同法施行令第 8 条に定める疾病の治療に要した費用の援助。 ・ H31 準要保護児童生徒扶助児童数 536 名、特別支援学級在籍扶助児童数 68 名
成 果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られている。
課 題	認定事務の効率化に向けた検討を進めていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

7 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

項 目	教職員住宅管理事業（継続）
目 的	教職員住宅の維持修繕及び営繕を行い、教職員が快適に生活できる環境をつくる。 (平成31年度末 管理住宅70戸)
取組実績	・ 9 月中旬に修繕要望を取りまとめ、10 月中旬に現地調査を実施 ・ 修繕内容：住宅補修、水廻り・ボイラー修繕、暖房設備修繕等 ・ 人事異動に伴う新入居者の決定（3 月下旬に教職員住宅入居者選考委員会による）
成 果	修繕要望があった箇所は緊急度が高いものから優先的に修繕を行い、快適な生活環境を整備している。
課 題	現状の予算規模内で修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も現状の予算規模内で維持修繕を行うが、老朽化が進んでいるため、可能な範囲での住環境の整備に努める。

項 目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目 的	小中学校施設の管理（備品購入、業務委託等）をし、児童生徒や教職員が安心・安全に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	主な備品購入、業務委託の実施状況 【小学校備品】：東小 複合機(789千円)、東小 除雪機(677千円)、 東小 NAS(169千円)、西小 暖房機(214千円) 潮見小 暖房機(330千円)、南小 除雪機(242千円)、 【中学校備品】：第一中 裁断機(468千円)、第三中 芝刈機(235千円)、 第三中 紙折機(136千円)、呼人小中 複合機(792千円) 【委託業務】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、 廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、トイレ清掃 学校配当予算の執行状況 【小学校】需用費16,482千円、役務費760千円、備品購入費1,729千円 合計18,971千円 【中学校】需用費11,531千円、役務費285千円、備品購入費 637千円 合計12,453千円
成 果	学校からの要望や耐用年数等から備品の購入や業務委託を行い、施設の維持が図られている。
課 題	予算の有効活用と優先順位の検証を行う。
今後の方向性	今後についても引き続き、予算規模内で備品管理、業務委託を実施し、児童生徒・教職員の安心・安全な環境づくりを引き続き進めていく。

項 目	学校改修事業（継続）
目 的	学校施設の長寿命化を図り、児童及び生徒の良好な学習環境を維持する。
取組実績	網走小学校地下灯油タンク改修 2,484千円 第三中学校屋上防水改修 26,244千円 第五中学校図書館改修 2,797千円 小中学校窓用網戸設置 7,962千円
成 果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課 題	改修財源の確保
今後の方向性	改修計画に基づき学校施設や設備の長寿命化を図り、安全安心な学習環境を維持する。

項 目	学校施設の営繕・修繕工事（継続）
目 的	小中学校の校舎やグラウンド等の維持修繕及び営繕を行い、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	主な営繕の実施状況 【小学校】：冠水対策工事(網走小、南小 2,516千円)、屋体床面補修工事(潮見小、中央小 834千円)、白鳥台小グラウンド改修工事(1,112千円)、電話設備改修工事(中央小、白鳥台小1,944千円) 【中学校】：一中屋体床面補修工事(580千円)、一中グラウンド改修工事(1,166千円)、電話設備改修工事(五中517千円)等
成 果	学校からの要望や耐用年数等から、学校施設の必要な維持修繕及び営繕を行い、施設整備が充実され安心・安全な環境がつけられている。
課 題	現状の予算規模内で維持修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって安心・安全な環境づくりを進めていく。

項 目	教員住宅確保対策事業（継続）
目 的	網走市内小中学校に勤務する教職員の住宅を確保するため、株式会社網走振興公社が民間等から借上げして、教職員に賃貸する借上住宅の使用料の一部に対し補助を行う。 （令和元年度末 民間アパート 2 棟、36 戸借上げ）
取組実績	網走市立小中学校に勤務する教職員の住宅を確保し、教育環境の整備を図る。
成 果	網走市内小中学校に勤務する教職員の家賃負担の軽減
課 題	入居勧奨により空き物件を減らす必要がある。
今後の方向性	網走市内の民間アパートの整備状況を踏まえ、本事業の廃止時期を検討していく。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目 的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材・教具の整備を図る。
取組実績	網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額 90 千円の補助を行った。
成 果	教材・教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課 題	教材等の整備により、さらなる生徒の学習意欲や社会に出ていくにあたってのスキル向上のための支援が必要である。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制生徒通学手段確保事業(新規)
目 的	定時制高校生徒の下校時タクシー乗合利用で、利便性の向上と安全確保を図る。
取組実績	網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額 597 千円の補助を行った。 実績 延べ 581 人利用 利用日数 165 日
成 果	夜間の下校時における利便性の向上と安全な下校手段の確保が図られた。
課 題	入学者数の確保
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	スクールバス運行事業（継続）
目 的	網走市郊外の西部地区及び東部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	・遠距離通学児童生徒のため、西部地区 3 路線、東部地区 5 路線の登下校便を運行する。 ・小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバスの学校配当を行う。 （小学校 1,352 千円、中学校 1,005 千円） ・学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を行う。 ・休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を行う。
成 果	遠距離通学児童生徒の利便性の向上と負担の軽減が図られている。
課 題	児童生徒の状況により、停留所や路線を毎年度見直ししていることから、利用者によって乗降場所に遠近の差が生じる、季節や状況によって乗降位置が変更するなどの実態がある。また、過去に設置された待合所が老朽化等により未利用の場合、順次撤去を行う必要がある。
今後の方向性	今後も継続して安全・安定運行に努める。また、路線及び停留所の設定等については、地域と協議のうえ、取り進めていく。

項 目	スクールバス整備事業（新規）
目 的	郊外地区の遠距離通学となる児童生徒の安全・安心な通学手段を確保する。
取組実績	能取線に老朽化した借り上げバスから、中型バスを購入し、スクールバスを更新整備した。
成 果	遠距離通学児童生徒の安定的な送迎が図られている。
課 題	車両の状況により、故障の頻度が異なり、購入まで時間を要するため、更新時期の見極めが難しい。
今後の方向性	スクールバスの点検整備や維持管理を行い、児童生徒の安全な通学環境の確保に努める。

項 目	子ども安全対策事業〔安全対策、通学路の整備〕（継続）
目 的	児童生徒が安全に通学できる通学路の安全対策を図る。
取組実績	通学路交通安全等プログラムによる関係機関との合同点検を実施し、安全対策について確認を行った（令和元年6月6日、11名参加）。子どもの安全確保連絡会議を開催し、関係機関との協議を行った（令和元年7月19日、24名参加）。危険箇所については関係機関の協力のもと対策を実施した。
成 果	登下校時における児童生徒の安全を確保した。
課 題	より効果的な安全対策について検討する。
今後の方向性	今後も通学路の安全対策を図っていく。

項 目	吹奏楽楽器整備事業（継続）
目 的	ふるさと寄付を活用し、小中学校の音楽教育を支援すべく吹奏楽における楽器を整備する。
取組実績	市内小中学校（網走小、第一中、第二中、第三中、第五中）から要望のあった楽器を整備した。
成 果	楽器整備により、各校の老朽化した楽器を更新でき、取り組める楽曲の幅が広がった。
課 題	楽器が高価であるため整備できる規模が限られるとともに、楽器の維持管理の支援も必要である。
今後の方向性	児童生徒の音楽教育の充実を図っていく。

項 目	教職員研修事業（継続）
目 的	教育課題の解決にあたって、教師の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上を図る
取組実績	教育課程研究指定校事業 研究協議会 参加者5名 324千円 教職員研修、体力向上研修、ICT活用研修 学力向上フォーラムの開催（令和元年12月7日）
成 果	教師の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上が図られた
課 題	新学習指導要領への対応など教育の今日的課題に応じた研修内容の充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	校務支援システム管理事業（継続）
目 的	校務支援システムの運用により、各小中学校の校務軽減と情報の共有化を通じて、教育の質の向上を図る。
取組実績	全ての小中学校で、教職員の校務用パソコンによる校務支援システム（C4th）の運用を開始した。
成 果	全ての学校において校務支援システムを活用した業務を行い、業務の定型化・情報の共有化が図られ、効率化した。 （主な業務内容）学籍管理、出席簿、学校日誌、成績管理、出勤簿機能
課 題	全ての学校でできるだけ多くの業務への運用する必要がある。
今後の方向性	今後も校務支援システムを活用した業務改善に取り組む。

項 目	学校教職員健康診断事業（継続）
目 的	教職員を対象に疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、健康診断を実施する。
取組実績	・学校に勤務する教職員 224 名の健康診断を実施（うち、要再検 52 名）
成 果	健康診断を実施することにより、教職員の健康管理が図られている。
課 題	各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の健康管理の推進に努める。

社会教育の推進

1 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を拓げるため、エコーセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民から講師・企画を募りながら市民の誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場を創出する。
取組実績	・ 開設日： 11月23日（土・祝）10:00～16:30 ・ 会 場： エコーセンター2000全館 ・ 内 容： 市民講師、サークルによる学習屋台（5つの広場31講座） ① わくわく体験広場 10講座 ② アトリウムロビー催事 5講座 ③ 伝統文化・異文化 体験広場 6講座 ④ ものづくり体験広場 5講座 ⑤ あばしりの広場 5講座 （鯨汁/網走ちゃんぽん/もち麦など） ・ 参加者： 2,000名 ・ 運 営： まなび塾フェスティバル実行委員会との共催 （平成30年度：5つの広場 26講座／参加 2,000名）
成 果	実行委員会との共催で、科学や物理、自然、文化などのほか、福祉や産業などを学習テーマに取り入れて開催し、エコーセンター2000の開館記念日の事業としても市民に定着しており、毎年多くの参加を得ている。
課 題	エコーセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、生涯学習活動拡大のため、幅広い周知や参加呼びかけなどを行っていく必要がある。
今後の方向性	個人・サークル等の紹介・発表の場として、市民の生涯学習への取組を喚起する機会として必要な事業であり、実行委員会と十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（継続）
目 的	市内の団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	・ 対 象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5名以上の参加者が見込める学習会とし、運営補助的事業を除く。 ・ 要 件 開催する場所・時間・形式は問わない。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・ 支援内容 講師謝金の助成。 ・ 事業実績 12団体12件 618名（ワークショップ4・研修会等8） （平成30年度：24団体24件 566名）
成 果	市民自らが企画する学習会を支援する制度として定着し、既存サークルや子育てグループまで幅広く活用されている。
課 題	自主的な学習・活動のさらなる推進のために幅広い周知 PR が必要。
今後の方向性	自主的な学習・活動の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。

項 目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目 的	市民の学習機会を拡充するため、豊富な経験や知識、技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元のを提供するとともに、学習者が自ら学ぶ機会を創出するための指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	・登録者 31名 ・指導内容 46項目（6部門23分野） ・指導先 学社融合事業「まちの達人出前事業」講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師ほか （平成30年度：6部門 20分野 42項目 30名）
成 果	市民の学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の学習の充実が図られた。 また、指導者の学習成果還元の場合として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。
課 題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容との適合を意識しながら、登録者の活動機会の提供を進めていく必要がある。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充するとともに、指導者への学習成果還元のを提供することは、登録者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、登録者との意見・情報交換や周知PRなどを行い、今後も引き続き取り組んでいく。

項 目	子どもと遊ぼうボランティア隊の登録（継続）
目 的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する場の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	・登録者 19名 ・登録内容 工作・実験、パンづくり、硬筆習字、音楽、折り紙、けん玉など16種類 ・実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施（38回275名参加） （平成30年度：39回302名参加、登録者18名）
成 果	登録された講師により「ロセトクラブ」を開催している。
課 題	登録者の主体的な取り組みを推進するため、活動意向や意見を把握する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいております、土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

（２）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項 目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目 的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	・市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより」を掲載 ・市ホームページによる情報提供、報道機関への周知・記事掲載 ・市公式フェイスブックによる情報提供 ・登録者へのメールによる情報提供（お知らせメール@あばしり） ・小学校、中学校、幼稚園等関係機関へのチラシ等の配布 ・ポスターを作成し市内各所に掲示 ・オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実、館内での講座レポート掲示（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成 果	各種媒体の活用により社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。
課 題	より効果的なPRのため、情報化社会に対応した手法の研究が必要である。
今後の方向性	引き続き、デザインなどの工夫をしながら広報紙等での周知を図っていく。ホームページやフェイスブックなどSNSを活用し若い世代を含めて広く情報提供に努める。

(3) 生涯学習関連施設の整備、機能向上

項 目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目 的	オホーツク・文化交流センターの修繕を行う。
取組実績	・ 舞台吊物設備改修工事 4,840千円
成 果	施設設備の安全性、必要性を考慮し、優先順位の高い部分の保守および修繕が行えた。
課 題	定期的な保守メンテナンスを実施しているが、開館から 19 年経過し、修繕の必要な部分の増加が今後見込まれる。
今後の方向性	エコーセンターは、市民の集会、公演及び生涯学習の場として重要な施設であることから、今後も安全性、緊急性、必要性等を考慮し、安心安全な施設利用が出来るよう施設の管理運営に努めていく。

項 目	市民会館改修事業（拡充）
目 的	網走市民会館の修繕を行う。
取組実績	・ 舞台吊物設備改修工事 3,850千円
成 果	施設設備の安全性、必要性を考慮し、優先順位の高い設備更新が行えた。
課 題	昭和 43 年建築の施設であり、老朽化に伴う改修は緊急性の高い部分や安全性を考慮し対応していかななくてはならない。
今後の方向性	1000 人規模の公演等に対応できる施設は必要性があり、安心安全でより持続的な利用ができるよう管理運営に努める。

(4) 図書館の充実

項 目	図書館管理システム機器等更新事業（拡充）
目 的	図書館管理システム機器更新を行う。
取組実績	・ 図書館管理システム機器 3,780千円
成 果	図書館管理システムを正常動作が可能な機器への更新が行えた。
課 題	今後も定期的な機器更新が必要。
今後の方向性	インターネットを活用した利用者サービス向上に努める。

項 目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目 的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者に幅広く情報を提供することにより、多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	・ 資料購入及び寄贈数：図書 4,682冊（内寄贈 457冊）、雑誌 1,525冊（内寄贈 195冊）、視聴覚資料 45点（内寄贈 6点）、地方資料 302冊（内寄贈 236冊） ・ 図書館蔵書数：R1年度末 203,587冊（地方資料 25,819点を含む） ・ 図書貸出人数 36,372名、貸出冊数 155,244冊、来館者数（本館）120,978名
成 果	市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。
課 題	書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍。
今後の方向性	現図書館への移転に伴い購入した多くの図書が19年ほど経過しており、陳腐化し古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。

項 目	地域分庫事業（継続）
目 的	市立図書館から遠い地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	・市内10箇所の地域分庫の維持管理 ・地域分庫利用者数 1,265名 貸出冊数 1,908冊 ・「分庫だより」の作成・配布（郊外地区4分庫）
成 果	市内全域にわたる読書機会の充実が図られた。
課 題	地域や施設管理者などとの連携強化。
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と、蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項 目	ふるさと学習支援事業（継続）
目 的	地域情報の発信を図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	・企画展示の開催（年4回） 「6月は食育月間～食と健康展」、「ラグビーワールドカップ応援企画見てみよう！ラグビー」、「網走港のあゆみ」、「流氷パタラ衣裳展」 ・「ふるさとあばしりコーナー」を設置し、地方資料を紹介
成 果	期間中の来館者に地域課題についての学習機会を提供することができた。
課 題	・地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討。 ・単発的な展示、紹介から、収集した資料の長期的、系統的なPR方法の検討。
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーの資料充実などを通して、市民に対するふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

項 目	インターネットを活用した蔵書公開（継続）
目 的	インターネットを活用し利用者サービスの向上を図る。
取組実績	・インターネット（図書館ホームページ）による所蔵資料の検索、新着・新刊案内、各種お知らせ、予約サービス等の実施 ・スマートホン等に対応した利用者サービスシステムの運用 ・R1年度 アクセス数 282,292件、パスワード新規登録者64名（登録総数 4,096名） ・インターネットによる予約サービス利用 2,204件（予約サービス利用総数 6,159件）
成 果	インターネットの活用により、利用者の利便性が図られた。
課 題	図書館事業や利用方法の周知など、ホームページやSNSの定期的な内容更新が必要。
今後の方向性	今後もホームページの内容を精査し、効果的な情報提供を行う。予約等における業務効率向上のため、メールによる対応を進める。

（５）読書の普及、読書活動の促進

項 目	子どもの読書活動推進計画（新規）
目 的	子どもの発達段階に応じた、読書に親しむ環境を整える。
取組実績	・アンケート調査の実施 ・第4次網走市子ども読書活動推進計画策定
成 果	子どもの読書活動の現状や傾向、ニーズを把握することができた。
課 題	図書館に市民が気軽に足を運ぶことにより、子どもも読書に親しむことができるような多様な取組や事業を行い、利用促進に努める必要がある。
今後の方向性	家庭、地域、学校等と連携し社会全体で読書活動の推進を図るとともに、図書館や学校等における読書環境の整備を行っていく。

項 目	課題解決型常設展示の実施（継続）
目 的	図書館の本は、殆どの公共図書館・学校図書館で使用されている日本十進分類法により配置されており、代表的な一つの分類しかできないが、分類番号は異なっているにもかかわらず健康や料理などのテーマでまとめて配置することで、利用者の利便性の向上を図る。
取組実績	・日本十進分類法とは別に分類して「くらしのコーナー」、「いきいきシニアコーナー」を設置。
成 果	利用者の関心の高いテーマであり、図書館活用のきっかけ作りとなっている。
課 題	配置可能な本のテーマやジャンルが限定される。
今後の方向性	配置する本の見直しをしながら、利用者に喜ばれるコーナーづくりをめざす。

項 目	ブックスタート事業の実施（継続）
目 的	乳児期から本に親しむ環境を整え、読書活動の基礎を育むとともに、図書館の利用向上を図る。
取組実績	・ゼロ歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈る。（152名） ・子ども名義のかしだしカードの作成。（90名）
成 果	乳児期から本に親しむことで、将来の読書活動に結びつくきっかけづくりとなっている。また、親子のコミュニケーションづくりの一助となっている。
課 題	子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップや読める年齢になったときの支援が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項 目	学校巡回図書（クリオネ文庫）推進事業（継続）
目 的	図書館が小学校と連携し、図書館の本を各教室に配置することで、子どもの読書活動の機会の充実を図る。
取組実績	・小学生の身近な場所である学校で本に親しむ環境作りを進めるため、小学校各教室に30冊ずつ図書を配置。（1～3ヶ月ごとに巡回） ・配置学級数：9校 70学級。配置図書：3,480冊
成 果	学校の休み時間や授業等で活用され、小学生が本に接する機会が増えている。
課 題	・実施に当たっては、引き続き学校と連携した取り組みが必要。 ・学校図書との役割分担が課題。
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、本の入れ替えを行いながら、継続して実施する。

項 目	こどもの読書週間記念事業の開催（継続）
目 的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進と図書館の利用促進を図る。
取組実績	・こどもの読書週間記念イベントの開催 クレヨンカンパニーの人形劇『いろいろげきじょう2019』5/12開催 来場者128名 ・企画展示「あっぱれ！平成の人気児童書たち」 4/23～5/12
成 果	親子で図書館に親しむ機会を提供することにより、子どもの読書活動の推進に寄与できた。
課 題	事業の開催に当たって、内容の工夫、研究が必要。
今後の方向性	子どもたちの読書活動の推進を図るため、継続して記念事業を開催する。

項 目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目 的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図るとともに、乳幼児を含めた読書環境の充実を図る。
取組実績	・よみきかせ会（えほんのもり 44回 439名参加、子育て支援センター 3回 57名参加） ・お楽しみ会開催（夏・冬）78名参加 ・一日図書館員体験（夏・冬）28名参加 ・毎週のよみきかせ会は高校生を含むボランティア団体により実施
成 果	・よみきかせを通じて、子どもの言葉、表現力を磨くことができた。 ・図書館の仕事にふれることによって、読書の楽しさを知るきっかけづくりが図られた。
課 題	ボランティア団体の会員減少に伴う協力事業の内容の変更
今後の方向性	広く市民の読書活動を推進するため、継続して実施していく。

項 目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目 的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協力により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	・対面朗読サービス、視覚障がいの方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作製、「えほんのもり」でのよみきかせ、高齢者施設等でのよみきかせなどを実施。 ・図書館まつり、蔵書点検等へのボランティアの協力。
成 果	・点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供ができた。 ・図書館まつりではボランティアによる古本市が実施され、多くの市民に喜ばれている。
課 題	・ボランティアと図書館職員との十分な連携が必要。 ・ボランティアの新たな人材の確保。
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体と協力した事業を継続する。

項 目	ボランティア養成事業（継続）
目 的	ボランティア団体の学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民との協働による図書館活動の充実を図る。
取組実績	・外部講師を招いた読み聞かせ講座及び中級朗読講座を開催。 10/3 中級朗読講座 7名参加 11/9 読み聞かせ講座 28名参加 ・ボランティア団体のメンバーが講師となり、布絵本作り講習会を開催。 7/30 布絵本作り講習会 19名参加
成 果	朗読講座等を通じ、読み聞かせボランティアのスキルアップが図られた。
課 題	ボランティア活動の内容充実と参加者拡大のために講座等の内容の工夫が必要。
今後の方向性	多様なボランティア活動があるため、今後も各団体の意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを開催していく。

項 目	図書館まっりの開催（継続）
目 的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	・10月13日（日）開催 古本市、人形劇公演、子ども俳句・短歌大会表彰式 来場者約334名 ・古本市、人形劇公演はボランティアにより実施。
成 果	図書館の利用促進及び読書活動の推進が図られた。
課 題	今後も関係団体の協力を得て、連携した事業内容や展示の工夫が必要。
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項 目	絵本パック「ベビークリオネ」「プチクリオネ」の貸し出し（継続）
目 的	乳幼児と親が絵本に親しむきっかけとする。
取組実績	・「ベビークリオネ」（0～3歳向け5冊、20セット）貸し出し：250回 ・「プチクリオネ」（4～6歳向け5冊、10セット）貸し出し：112回
成 果	「どんな絵本を選んだらよいか」との保護者の悩みに応えるため、司書が乳幼児向けの年齢別に選んだ絵本パックを作り、貸し出すことにより、乳幼児親子の図書館利用の促進と読書のきっかけづくりが図られた。
課 題	今後も親子の利用拡大に向け、絵本の充実や更新が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

2 社会教育

（1）すべての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項 目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目 的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして講座を開設する。
取組実績	・初心者のための手作りみそ友講座（春季） 2日間 18名（延34名） ・作って食べよう！簡単しゅうまい&ぎょうざ教室 16名 ・能楽・謡・囃子体験ワークショップ 11名 ・ウィルタ刺繍入門講座 全6回 7名（延34名） ・初心者のための手作りみそ友講座（冬季） 2日間 18名（延36名）
成 果	ウィルタ刺繍講座は、サークルが指導を担い、文化の継承に貢献している。 また、様々なジャンルの多様な講座内容としたことから、新たな市民ニーズに応えることができた。
課 題	市民が地域での問題点や課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払っていかねばならない。
今後の方向性	関係機関や市民との連携、協働により地域の課題の把握に努めながら学習機会を提供していく。

項 目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目 的	市民が自ら講座を開催する際の支援をし、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	・書道、浴衣着付け、フラダンス、折り紙、クイリング 5講座11回 ・参加 80名（延べ138名） （平成30年度：3講座10回／参加49名 延べ124名）
成 果	市民やサークルのボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。
課 題	学習成果の還元を開催目的とするほか、市民の要望に応じた分野、開設時期などを検討する必要がある。
今後の方向性	市民の学習成果還元の機会として、主体的な講座開設とサークル活動の活性化につなげていく。

項 目	あばしり学講座の開設（継続）
目 的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとし、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進めることのより地域の活性化を目指す。
取組実績	■単講座 ① 7月20日「網走湖徹底調査&網走川下り！」（小学生） 参加者 30名 ② 9月 7日「意外と知らないヒグマの世界」（子どもの部） 参加者 30名 ③ 9月 7日「意外と知らないヒグマの世界」（一般の部） 参加者 23名 ④ 10月 5日「網走川のサケを見に行こう！」 参加者 28名 ⑤ 1月26日「船上学習会inおーろら」（小学生） 参加者 33名 ■親子講座 7家族 全7回 ① 9月28日、10月16日、26日 網走産のかぼちゃで作ろう！ジャックオランタン（全3回） ② 1月14日～2月9日 「親子で雪像づくり」（全4回） ■青年講座 U-35（18～35歳） ① 1月9日～2月11日「エコセン冬まつり」企画・準備 参加者 14名（延58名） ② 2月11日「エコセン冬まつり」 来場者 約250名 ■ロセトコース（対象）小学4～6年生（参加者）6名 全8回 ① 7月20日「網走湖徹底調査&網走川下り！」 ② 8月 3日「駒生川で生き物を探そう！」 ③ 8月10日「ノンノの森にて源流探し」 ④ 8月31日「酪農と農業を体験しよう」 ⑤ 10月 5日「網走川のサケを見に行こう」 ⑥ 10月20日「網走川流域スペシャルクッキング&活動のふりかえり」 ⑦ 12月 1日「Scratchを使って網走を紹介しようPart1」 ⑧ 1月26日「船上学習会inおーろら」 ■学生HERO'S（対象）中学・高校・大学生（参加者）40名（延205名） 全18回 ・ボランティア研修会 2日間 10名 ・あばしり学講座 16回 延174名 ・市子ども会育成連合会連携(子ども大会) 21名
成 果	誰でも参加できる講座や親子講座・青年講座など、網走の魅力を共有するさまざまな機会を創出することが出来た。 ロセトコース、学生HERO'Sといった小学生～大学生までの各世代がジュニアリーダーとしての役割を担う講座を開設し、異世代との交流の中で社会的役割を認識しながら郷土を学ぶ機会となった。
課 題	まちづくりや人づくりにつながる題材の研究や手法の工夫によって魅力ある講座づくりを進めることが重要。
今後の方向性	関係機関との連携により、参加者相互の交流を含めて網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながる講座展開に取り組んでいく。

項 目	寿大学の開設（継続）
目 的	社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術の習得、健康の維持など、積極的な高齢者の生きがいを求める学習の場を提供する。
取組実績	・大学 開設日 4月～翌年3月／第2・第4水曜日／午前10時～正午 会 場 エコーセンター2000 内 容 一般教養、クラブ活動、自治会活動 開設数：21回 在籍数 209名（1年19名、2年19名、3年16名、4年35名） （大学院28名、生涯研究生92名） 自治会 ボランティア活動、課外学習など 21回 学年別学習 1年「網走市寿大学のいろはを学ぶ」磯江良三氏 12名 2年「網走ちゃんぽんをつくろう」網走ちゃんぽん研究会 10名 3年「世代間交流」西が丘小学校との交流 10名 4年「他校との交流」清里町ことぶき大学との交流 21名 ・大学院 開設日 4月～翌年3月／第4木曜日／午前10時～11時30分 会 場 エコーセンター2000 内 容 郷土史コース（1年）、自分史コース（2年） 開設数：11回 （平成30年度：寿大学 1～4年 100名、大学院 20名、生涯研究生 92名）
成 果	高齢者の生きがいや生活技術の習得を目的とした学習内容とし、社会参加の促進のために必要な学習機会を自治会の協力により提供できた。学年別学習や大学院1年生のグループ学習は、仲間づくりの機会ともなり、高齢者の学習意欲の更なる高揚が図られた。
課 題	一般教養講座では、高齢者の生活課題を学習テーマとすることが重要。また、クラブ活動や自治会活動を通して学んだ成果を社会参加やボランティア活動に繋げていくことを奨励する必要がある。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応するとともに、学年別学習、自治会活動、サークル活動を通じた社会参加や地域交流を促進することにより、高齢者の知識や技術等を広く市民や後世に伝える大切さを指導していく。

項 目	北海道科学大学との連携講座の開催（継続）
目 的	北海道科学大学と連携し、市民が幅広い分野について学ぶことができる公開講座を開催する。
取組実績	・あばしり学ロセトコース「Scratchを使って網走を紹介しようPart1」 17名 ・あばしり学ロセトコース「Scratchを使って網走を紹介しようPart2」 ：新型コロナウイルス感染症流行により中止
成 果	あばしり学講座と連携し、目的や対象者にあわせて効率的に開催した。児童が専門的な内容についてわかりやすい講座内容から知識を広げる機会となった。
課 題	大学の知的財産と市民が求める知識、地域課題の解決につながる講座内容との適合。
今後の方向性	北海道科学大学やOB会と連携して、充実した講座を開催していく。

項 目	暮らしをデザイン2019の開催（継続）
目 的	市民一人ひとりが家庭や学校、地域社会における男女平等意識の高揚を図るため、女性学・男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスなど現代的生活課題を学習する講演・学習会を開催する。
取組実績	・開設日： 2月24日 午後3時～5時 ・講演名： はじめてのLGBT～性の多様性と人権～ ・講 師： （株）ニューキャンパス 杉山 文野 氏 ・会 場： エコーセンター2000 大会議室 ・内 容： LGBTの基本の話から、当事者の方がどのようなことに困っているのかなどの講演 ・参加者： 92名
成 果	性の多様性について、今までより身近な事実として認識し、またセクシャルマイノリティについてだけでなく、様々な他者への理解や配慮について考える機会になり、多様な個性を認め合う地域を担う人材育成のきっかけの場になった。
課 題	住民が課題と感じていることを知り、テーマに取り入れる地域課題の発掘と周知方法の検討が必要である。 また、幅広い世代の生活などを見つめなおす機会とするためには、課題を共有しながら相互理解を深めるテーマやプログラムを研究していく必要がある。
今後の方向性	女性学・男女共同参画をはじめとして、生活課題に関しての学習機会を、男女を問わず多様な年齢層の市民に拡大していくため、講演内容や開設方法を研究していく。

（２）子どものための学習や体験の場の提供

項 目	放課後子ども教室推進事業（継続）
目 的	子どもたちの安全で安心な活動拠点づくりのために、放課後や週末に地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化活動、交流・体験活動の場を提供する。（遊村あばしり）
取組実績	・開設日：5月～翌年2月／平日 午後3時～午後5時／休日 午前10時～正午 ・開設数：375回 ・会 場：市内6カ所（コミュニティセンターほか） ・指導者：市内4団体 ・内 容：①キックベースボール、トランポリン、スポーツライティング、体育の苦手な子のための体育教室、音楽 ②学習と将棋体験 ③遊び、工作、学習とアート体験、書道、スポーツ、季節の遊びほか ・参加数：延べ3,842名 （平成30年度：399回開設、4,114名参加）
成 果	NPO法人等が有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムを提供することにより、障がいをもった子どもたちを含めて、放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。
課 題	国費補助の状況が変化中、教室の安定的な運営を図る必要がある。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく。

項 目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目 的	子どもたちが大勢集まり、様々に楽しめる空間や、日常の遊びのヒントになるような場を提供し、遊びから培われる「子ども文化」の醸成を支援する。
取組実績	・あばしり科学フェスティバル 目 的：子どもたちの理科離れが進む傾向の中、実験などを通して理科や算数を身近なものとして捉え、子どもたちの科学への関心を高める。 開催日：7月7日（日）午前9時30分～12時30分 運 営：ボランティアスタッフによる実行委員会との共催 内 容：科学の原理に基づいたモノづくりや実験などの16コーナーとサイエンスショー 参加者：253名、ボランティアスタッフ 150名 （平成30年度：参加者281名、ボランティアスタッフ 133名）
成 果	・市民が組織する実行委員会による運営が定着しており、子どもたちが理科や算数の原理を身近なものとして捉えることができる機会を創出できた。 ・実行委員のほか、市民ボランティアや東京農業大学教職課程の学生が参画し、子どもたちと交流しながら参加者とともに楽しみながら学びあう機会が創出できた。
課 題	市民指導者、スタッフの育成・充実の促進。
今後の方向性	ほかの社会教育事業との連動により、市民指導者・スタッフのさらなる育成に努めながら取り組んでいく。

項 目	ロセトクラブの開催（継続）
目 的	子どもの余暇の充実のため、市民ボランティアの指導者により学習機会を提供し、子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	・ロセトクラブ（短期） 4月～翌年3月／18回 187名 内 容：パン作り、工作、けん玉教室、料理、編み物、生け花、硬筆習字など ・ロセトクラブ（長期） 4月～3月／18回 17名（延べ88名） 内 容：バイオリン、琴、書道 指導者：登録 18種類19名（子どもと遊ぼうボランティア隊） （平成30年度：短期 25回／239名 長期 14回／12名 延べ63名）
成 果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課 題	市民ボランティアの自主運営としているため、開催時期や人数などで指導者と参加者ニーズが合わない場合がある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項 目	中学生、高校生への自習室開設（継続）
目 的	オホーツク・文化交流センターの空き室を中学生・高校生の自主学習の場として開放することにより、青少年の居場所づくり、学力向上に資する。
取組実績	5月23日～2月26日 237日間 1,381名 2月27日以降は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため閉鎖 （平成30年度 186日間 1,639名）
成 果	令和元年度から開設通年化を図り、夏休み、冬休みなどの学校長期休業中や試験前には、より多くの学生が自習室を利用した。
課 題	利用者が増加した場合の部屋確保等
今後の方向性	施設運営に支障のない範囲で利用者の要望を反映しながら今後も取り組んでいく。

項 目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目 的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切に、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	・開設日：6月～9月 指定日曜日 午後1時～3時45分 ・開設数：8回 ・会 場：呼人スポーツトレーニングフィールドほか ・内 容：うさぎ、モルモット、ヒヨコ、ハムスター ・入場者：2,199名（子ども 1,247名、おとな 952名） （平成30年度 8回 入場者 合計1,372名／ 子ども695名、おとな677名）
成 果	子どもにとって、動物との接触は楽しく稀な体験であり、情操の発達に役立っている。
課 題	動物の負担や飼育状況を飼育委託先の団体と連絡調整しながら、開園手法を研究する必要がある。
今後の方向性	例年、多数の親子入場者がいることから、今後も引き続き実施する。

項 目	子ども夢育事業（継続）
目 的	市内中学生を対象に、夢や人生などをテーマとした文化講演を開催し、夢を持って生きることの大切さを学び、感性豊かな心を育むことでたくましく生きる力を形成する。
取組実績	講 師 杉本 美香 氏（元柔道オリンピックメダリスト） 講演名 笑顔 ～オリンピックへの道のり～ 期 日 11月15日 午前10時10分～11時40分 会 場 エコーセンター2000 聴衆者 市内全中学校第2学年生徒・教職員等 6校336名
成 果	「夢を持つことの大切さ」「仲間の支え」「自分で選択をすること」など、体験談を通じてだからこそ伝わる内容であり、中学生が人生に大切なことを学ぶ機会となった。
課 題	講師選定や開催時期、場所、手法などについて学校との連携調整が必要。
今後の方向性	学校と連携し、効果的な開催手法を研究しながら事業を進めていく。

項 目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目 的	子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	・夏休み教室（4教室 31名） 「きんちゃく袋を作ってみよう！」（指導：安田智子さん） 8月3日 午前10時～12時 小学生4名 「親子工作教室」（指導：どこでも竹とんぼ教室オホーツク） 8月4日 午前10時～12時 小学生7名 「夏のそば打ち教室」（指導：網走そば同好会） 8月6日 午前10時～13時 小学生9名 「パンを作ろう！」（指導：赤塚養子氏） 8月7日 午前10時15分～11時25分 小学生11名 ・冬休み教室（2教室 18名） 「2020年てづくりお習字カレンダー」（指導：鈴木次子さん） 1月7・8日 午前10時～12時 小学生 6名 「冬の親子そば打ち教室」（指導：網走そば同好会） 1月11日 午前10時～13時 小学生12名 （平成30年度：夏休み・冬休み教室 6教室／84名）
成 果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課 題	子どもを対象とした創作体験事業を検証・評価し、網走の魅力や価値に関心を寄せることができる学習プログラムを今後も引き続き検討する必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休みでの多様な学習プログラムを今後も検討していく。

(3) 学習成果を還元する機会の充実

項 目	学校支援地域本部事業の実施（継続）				
目 的	家庭・学校・地域が一体となって、子どもを育てる体制を整える。				
取組実績	・学習支援	16校	66件	ボランティア延人数	700名
	・部活動指導補助	3校	4件	ボランティア延人数	74名
	・環境整備支援	3校	3件	ボランティア延人数	28名
	・登下校安全指導	8校	9件	ボランティア延人数	4, 040名
	・学校行事補助	1校	1件	ボランティア延人数	2名
	・その他の支援	5校	12件	ボランティア延人数	963名
成 果	平成 20 年度の実施以来、事業についての市民、教員の理解も進み、活動が定着している。				
課 題	学校からの要望に対応できる体制の整備とボランティアの育成。				
今後の方向性	市内全小中学校で導入されたコミュニティスクールと連携を図りながら、推進体制の整備を行い、事業を継続していく。				

項 目	学社融合事業「まちの達人出前事業」の実施（継続）
目 的	学校の企画により、豊富な経験や知識・技能をもつ市民を授業の講師として派遣する。
取組実績	・対 象 市内小中学校の授業 ・要 件 1校あたり原則3回を上限とする。授業時間は、1回2時間程度とする。 ・支援内容 講師謝金を支援する。 ・事業実績 10校22件 市民講師 8名2団体 総合学習(5)、体育（13）、器楽合奏、特別活動、家庭科、学級活動 (平成30年度：10校24件)
成 果	総合的な学習の時間を中心に、地域の歴史・文化・マナーを学ぶために地元の人材が活用された。また、器楽合奏・体育などの専門的な科目において、技術・知識を持つ市民が指導に当たった。
課 題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。
今後の方向性	学校職員への周知に努めるとともに、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。

3 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項 目	家庭教育学級、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目 的	生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活を支援する。
取組実績	・家庭教育学級 小学校（網走小学校） 11月22日 参加者 20名 中学校（第一中学校） 7月 2日 参加者 52名 郊外地区（呼人小中学校） 11月27日 参加者 20名 ・家庭教育フォーラム兼網走市PTA連合会研究大会 内 容 10月5日 エコーホール 参加者 240名（託児25名） 講演「動物が教えてくれた人生で大切なこと～人はどう生きるべきか～」 講師 小菅 正夫 氏 （札幌市環境局参与 円山動物園担当、元旭川旭山動物園園長） （平成30年度：家庭教育学級 小学校 48 名、中学校 36 名 郊外地区 38 名 / 家庭教育 フォーラム 168 名）
成 果	家庭教育学級は、年度ごとの当番制で各単位PTAの自主的な企画によって、年齢や地域的な個別テーマにより実施しており、毎回多くの参加者がある。
課 題	学校やPTAなどとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、趣旨を充分伝え、PTA等の市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施していく。

項 目	親と子のふれあい教室（継続）
目 的	1歳半～3歳の幼児を育てる親のために生活の中で役に立つテーマについて親子で学び、体験する機会を提供するとともに、親同士の交流の場となるよう開催する
取組実績	・親と子のふれあい教室第1期 6月4日～6月25日（計4回） 13組 ① おうちでできる救急講座（消防署救急係職員） ② アルバムカフェ～形に残そう思い出写真～（松永さん） ③ ママ歯科医師が伝える「先手必勝！」～歯の話～（クリオネ矯正歯科院長 三崎さん） ④ 心すくすく生活リズム（市保健師） ・親と子のふれあい教室第2期 11月5日～11月26日（計4回） 11組 ① 絵本と友達になろう（屯文庫 稲川さん） ② 食育「食えることって楽しい」（市子育て支援課栄養士） ③ 短時間deクッキング（市子育て支援課栄養士） ④ ひとりでできるかな（潮見保育園 吉岡さん）
成 果	要望の多い講座内容を組み込んだため、参加者の満足度が高かった。また、初めて子育てする親なども多く、親同士が和やかに交流する機会となった。
課 題	子育ての不安などを聞き取り、解決できるような内容を研究し、若い子育て世代の居場所、ネットワークづくりにつなげていく必要がある。
今後の方向性	保健センター、子育て支援センターの取り組みと情報を共有しながら取り組んでいく。

項 目	幼児を育てる親の子育て講演会（継続）
目 的	都市化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てることが難しくなっており、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い、不安の解消に努める。
取組実績	7月11日 午前10時～12時 エコーセンター2000 参加者36名（託児20名） 「音楽の力～子どもと一緒に見つけよう生の音～」 札幌交響楽団コンサートマスター 大平 まゆみ 氏（平成30年度：参加者 80名）
成 果	託児を開設したことにより、受講者が託児を利用しながら講演に集中して受講することができた。
課 題	より多くの市民に参加を拡大していく中で、託児の対応について研究が必要。
今後の方向性	子育て支援センターや保育施設などと意見交換、情報交換を行いながら、内容の充実を図っていく。

（２）子どもを育む地域力育成の支援

項 目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目 的	子どもたちの豊かな心を育てるための啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	・豊かな心を育てる小中学生の意見発表会 「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」などをテーマに、自分の考えや体験したことを発表 発表者：市内小中学生 15名（小学生9名、中学生6名）、聴衆者 200名 ※第二中学校代表を少年の主張オホーツク地区大会へ推薦 ・啓発活動、標語募集 「あいさつ」「親切」「環境美化」「命の大切さ」「家族（小学生）」「働くこと（中学生）」の各テーマから選んだ標語を募集し、入選 30 作品を活用したカレンダーを作成 応募数 1,608 点 (平成 30 年度：応募数 1,715 点)
成 果	豊かな心を育てる活動推進会議は、青少年の健全育成を推進する全市的な組織として重要な存在となっており、学校とも連携していることから、啓発活動が広く効果的に進められた。
課 題	標語テーマの再検討など、活動がさらに活発化する取り組みが必要である。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取り組みであり、今後も推進していく。

4 芸術文化

(1) 文化活動の促進

項 目	オホーツク・アートセミナーの開催支援（継続）
目 的	市民に音楽や美術に関する質の高い優れた表現技法を専門講師から学ぶ機会を提供する「オホーツク・アートセミナー実行委員会」が行う事業に助成することにより、地域の芸術活動の活性化を図る。
取組実績	・音楽部門 ① バンドクリニックⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 開催時期 Ⅰ：7月30～31日 Ⅱ：7月29日 Ⅲ：7月10日 Ⅳ：7月25～26日 Ⅴ：6月29～30日 会 場 エコーセンター2000、市民会館、各学校 受講対象 網走小、第一中、第二中、第三中、網走吹奏楽団、南ヶ丘高、桂陽高 内 容 音楽活動への意欲及び表現力を学ぶ 受講者 228名 (Ⅰ：32名1校 Ⅱ：24名1校 Ⅲ：24名1校 Ⅳ：134名3校1団体 Ⅴ：14名5校) 指導者 バンドディレクター 栗村 典弘 氏・旭川地区吹奏楽連盟理事 佐藤 淳 氏・作曲家 鈴木 英史 氏・ネバダ大学教授 鈴木 孝佳 氏 札幌交響楽団 中野 幸太郎 氏 ② リコーダークリニック 開催日 第1期 10月25日 第2期 12月23日 会 場 第五中学校 内 容 リコーダーの興味関心を深め、演奏技術の向上を図る 受講者 第1期 4名 第2期 2名 指導者 リコーダー奏者 金子 健治 氏 ③ 歌曲講座 「マーラーの歌曲」 開催日 10月11日 会 場 エコーセンター2000 内 容 古典歌曲の興味関心を高め、クラシック音楽の楽しみ方を学ぶ 受講者 20名 指導者 声楽家 谷 篤 氏 ・美術部門 ① デザイン講座Ⅰ 「伝えるということ」 開催日 2月8・9日 会 場 網走市立美術館 内 容 ポスターや絵本など、観る側に伝える基本を学ぶ 受講者 10名 指導者 武蔵野美術大学名誉教授 今井 良朗 氏 デザイン講座Ⅱは、流氷まつり開催規模縮小により中止 ② 描画講座 新型コロナウイルス感染症流行により中止
成 果	国内一線級の専門講師による表現技法の指導により、技術レベルの向上と地域文化の活性化が図られた。
課 題	同実行委員会は、自主的な運営が図られており、特に問題はない。
今後の方向性	引き続き支援を行う。

項 目	文化団体の活動支援（継続）
目 的	市内文化団体で構成される網走市文化連盟が、広く市民対象に行う郷土文化振興事業に対して助成することにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	第20回市民文化フェスティバル（8月～11月） ・展示部門 ① 書道・俳句展 8月7～11日 ② 華道展 9月14～15日 ③ 子ども書道展 9月18～23日 ④ 盆栽展 9月27～29日 ⑤ 絵画展 10月23～27日 ⑥ 子ども絵画展 11月9～13日 ⑦ 子ども書道・絵画展 11月14～20日 ・舞台部門 ① 合唱祭 10月27日 ② 舞台芸能発表 11月10日
成 果	広範で多岐にわたる芸術文化活動の発表の場を開設している文化連盟の活動を支援することにより、市民生活や生涯学習の観点に立った芸術文化活動の推進を図ることができた。
課 題	文化連盟の自主性を発揮した取り組みがなされており、現状で課題はない。
今後の方向性	市民の文化団体活動の振興・発展のため必要な助成事業であり今後も引き続き実施する。

項 目	網走市民大学の開催（継続）
目 的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に対し助成することにより、市民の学習意欲を高め、新しい知識の習得や、教養の向上を図る。
取組実績	網走市民大学講座 開設日：6月～9月 講座数：5講座 会 場：エコーセンター2000 内 容：自然科学・人文科学など 参加数：登録受講者120名／延べ642名 運 営：網走市民大学役員会 （平成30年度：5講座 登録受講者118名／延べ763名）
成 果	市民組織により、幅広いジャンルの充実した学習内容を編成し、円滑な運営が行われた。
課 題	地域や生活に密着した学習内容が編成されているが、幅広い層への参加拡大や講師選考など限られた予算の中で効率的な運営を図ることが求められる。
今後の方向性	役員会において、学習プログラムの編成方法などの検討や市内の他の団体・機関で企画される講演会等との情報共有を図ることにより、ねらいとテーマを明確にしたうえで講師選定などに工夫しながら引き続き取り組んでいく。

項 目	芸術文化合宿誘致事業への支援（継続）
目 的	芸術文化団体の合宿受け入れを行い、市民との交流の推進と芸術文化の向上を目指す「芸術文化合宿実行委員会」が行う事業に助成を行い、芸術文化活動の拠点となる体制作りを進める。
取組実績	① 札幌大谷大学芸術学部美術学科 7月14～16日 参加者8名（写生合宿） 補助内容：移動手段の確保、交流会補助 ② HBCジュニアオーケストラ 7月28日～29日 参加者88名（無料演奏会7月29日 網走市民会館 入場者483名） 補助内容：市内移動に係る経費、演奏会開催経費 ③ 山中能舞台 8月19日～24日 参加者10名（寿大学教養講座で能披露、公開発表会開催） 補助内容：合宿活動における移動手段の確保、けいこ会場の確保 ④ 北海道旭川商業高等学校吹奏学局 3月14～15日（演奏合宿） 新型コロナウイルス感染症流行により中止 補助内容：中止が決定するまでの広告宣伝費
成 果	市外の芸術団体が市内に滞在し、芸術文化活動やコンサートによる市民及び市内団体との交流活動を行った。まちの賑わいを創出しながら、市民の芸術文化に対する関心を深める機会となった。
課 題	芸術文化団体の合宿地として定着するためには支援体制と併せ、合宿先として選択されるための魅力ある資源のPR活動が必要となる。
今後の方向性	実行委員会が主体となって、合宿団体への支援体制の充実や網走の魅力について広報PRに取り組んでいく。

項 目	文化芸術振興褒奨金事業（継続）
目 的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	・網走桂陽高校ボランティア部 全国高等学校総合文化祭ボランティア部門出場 ・網走南ヶ丘高校放送局 NHK杯全国高校放送コンテスト並びに校内放送活動研究集会出場 ・女声コーラス コール・ドルチェ 全日本おかあさんコーラス全国大会出場
成 果	予選を経て全国大会へ出場した文化芸術団体や高校部活動へ支援を行い、市民の文化芸術に対する意欲の高揚が図られた。
課 題	広く事業を活用してもらうため更なる周知広報が必要。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、広報PRを図っていく。

(2) 鑑賞機会の拡大

項 目	あばしりファミリー劇場（継続）
目 的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する「あばしりファミリー劇場実行委員会」が行う事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、感性豊かな人格形成をめざす。
取組実績	・開催日 9月1日(日)午後2時～3時25分 内容 マジックショー アッキーシアター ・会 場 網走市民会館 入場者 351名 ・ワークショップ 公演終了後、トランプを使った簡単なマジック、指先の運動など （平成 30 年度入場者 341 名）
成 果	幼児が家族と一緒に楽しめる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民による運営も定着している。公演内容と実行委員の取り組みの成果により堅調な入場者数となった。
課 題	市民実行委員会による効率的で安定した運営計画
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民実行委員会で運営方法を検討しながら、引き続き実施する。

項 目	アトリウムロビーコンサートの開催（継続）
目 的	誰でも気軽に音楽を鑑賞できる場を用意し、文化振興を図るとともに、エコーセンター 2000 が市民に開かれ、親しみやすい施設となることを目指す。
取組実績	・開設日 4月～翌年3月 土曜日 午前11時00分～12時30分 ・開設数 8回 ・内 容 合唱、楽器アンサンブル、詩吟、大正琴、ピアノほか ・来場者 750 名 （平成 30 年度：9 回／聴衆者 680 名） ※新型コロナウイルス感染症流行により 2 公演中止
成 果	アトリウムロビーの空間と設備を活用し、出演者・団体は経費負担もなく主体的な運営の中で発表の機会が得られ、音楽愛好者の底辺拡大に資することができた。 市民が気軽に音楽に触れることができる機会となっている。
課 題	多様な発表内容、分野への対応
今後の方向性	施設利用に配慮しながら、演奏時間の延長や複数団体の共演など、出演者の自由度の増した魅力あるコンサートづくりを進める。

項 目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の開催（継続）
目 的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れオホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	① 「網走音楽祭」 寺井尚子Withジャズ 開催日 6月2日（日）午後2時 会 場 エコーセンター2000 内 容 パイオリン、ピアノ、ベース、ドラムス、サックスによるジャズコンサート 入場者数 343名 ② 東日本大震災チャリティコンサート～土田英順チェロコンサート～ 開催日 7月13日（土） 午前11時30分 会 場 エコーセンター2000（アトリウムロビー） 内 容 チェロの独奏 入場者 68名 ③ 親子クラシック2019「クラデビ～赤ちゃんと一緒にクラシックデビュー」 開催日：8月4日（日） 午前10時30分 会 場 エコーセンター2000 内 容 赤ちゃんから大人まで一緒に楽しめるヴァイオリンとピアノコンサート 入場者数 226名 ④ H ZETTRIO TOUR2019～気分上々～網走公演 開催日 9月21日（土） 午後5時00分 会 場 エコーセンター2000 内 容 ピアノ、ベース、ドラムスによるジャズコンサート 入場者数 409名
成 果	市民の企画提案を取り入れながら、様々な分野の芸術文化の鑑賞機会を提供することができた。
課 題	補助事業を含め、芸術鑑賞事業の需要と供給の全体像を把握するとともに、公演事業を企画運営できる市民組織の育成について引き続き検討が必要である。
今後の方向性	企画から運営までを含め市民と行政が連携して実施する手法により、集客・収支率の向上を目指しながら引き続き実施する。また、広域の連携を図りながら効率的な公演が図られるよう努める。

項 目	網走市クラシック音楽鑑賞会事業（継続）
目 的	クラシック音楽活動の振興と優れたクラシック音楽の鑑賞機会の充実を図る。
取組実績	・ 京都大学交響楽団 網走公演 開催日 8月20日（日） 午後6時30分～8時40分 会 場 網走市民会館 入場者 569名
成 果	世界的に評価の高いクインテットの公演により、普段聞くことのできない本格的な演奏を市民が鑑賞できる機会を創出することができた。
課 題	優れたクラシック音楽公演の実現には、有識者の意見をはじめ、広く情報収集を行うことが必要
今後の方向性	実行委員会による運営を行い、より優れた鑑賞機会の提供に努める。

(3) 美術館の充実

①所蔵作品の展示

項 目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする所蔵作品の展示（常設展）（継続）
目 的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 299 日 観覧者数 高校生以上 1,659 名 中学生以下 204 名 合計 1,863 名
成 果	郷土出身作家だけでなく、郷土作家と関連のある若手作家の作品を公開することができた。
課 題	作家の紹介など、展示方法の改善についての検討が必要である。
今後の方向性	今後も郷土出身作家等の作品収蔵に努め所蔵作品の充実を図り広く郷土作家を紹介していく。

項 目	美術館所蔵作品展 （特別展） （継続）
目 的	美術館所蔵作品を特別展示し広く紹介する。
取組実績	・ 会 期 所蔵作品展 4 月 6 日～4 月 24 日 (16 日間) ・ 観覧者数 高校生以上 43 名 小中学生以下 3 名 合計 46 名
成 果	常設展以外でテーマを持ち所蔵作品を公開することができた。
課 題	所蔵している作家・作品の新たな調査結果などの研究が必要である。
今後の方向性	常設展に加えテーマを決めて所蔵作品を広く紹介していく。

②企画展の開催

項 目	平成の『生れ出づる悩み』展の開催（新規）
目 的	作家としての自立と、実生活との両立に悩む若き作家たちの紹介
取組実績	・ 会 期 5 月 3 日～5 月 27 日 (21 日間) ・ 観覧者数 高校生以上 185 名 小中学生以下 55 名 合計 240 名
成 果	若き作家の生の苦悩を紹介できた。
課 題	若き作家は知名度が低いため今後広報等に工夫が必要である。
今後の方向性	今後も若き作家を応援する機会をつくり、子どもが興味を持ち創作に対しての意欲を向上させるような企画を考える。

項 目	新鋭の 5 人『萌芽』展の開催（新規）
目 的	道内在住の若手作家の作品を紹介し、鑑賞機会の拡充を図る。
取組実績	・ 会 期 8 月 17 日～9 月 16 日 (26 日間) ・ 観覧者数 高校生以上 251 名 小中学生以下 92 名 合計 343 名 ・ 関連事業 ギャラリートーク 8/18 参加者 10 名
成 果	道内在住で活躍する若手作家の作品を紹介することで、作家を認知してもらい、また芸術鑑賞の拡充が図られた。
課 題	多様化する表現を解りやすく紹介することが課題となる。
今後の方向性	今後もこのような優れた美術作品の鑑賞機会を増やしていきたい。

項 目	若手作家現代版画展（新規）
目 的	美術大学版画研究室の作品を紹介することで、版画作品の鑑賞機会の充実を図る。
取組実績	・会 期 9月28日～11月3日（32日間） ・観覧者数 高校生以上 150名 小中学生以下 11名 合計 161名
成 果	版画は図工・美術の教科のなかで多く題材にされるジャンルであるが、学校教育と作家の間にあたる作品の鑑賞機会を得た。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していきたい。

項 目	南隆雄『陰・像・陽』展の開催（新規）
目 的	映像作家の作品と立体作品をインスタレーション（空間作品）として紹介する。
取組実績	・会 期 10月26日～11月10日（14日間） ・観覧者数 高校生以上 144名 小中学生以下 42名 合計 186名 ・クロージング 11/10 46名
成 果	現代アートの手法である映像によるインスタレーションを紹介できた。
課 題	作品展のタイトル、キャッチコピーなどポスター等に使用される言葉には解りやすいものを選ぶ必要がある。
今後の方向性	今後も優れた作品を紹介していく。

項 目	『鼓動する日本画展』の開催（新規）
目 的	北海道を拠点とする日本画家たちの紹介。従来の日本画だけでなく、立体や漫画イラストレーションなどに変化する表現を紹介する。
取組実績	・会 期 12月22日～2月11日（39日間） ・観覧者数 高校生以上 239名 小中学生以下 12名 合計 251名 ・関連事業 体験型講演会「日本画のひみつ」2/11 13名 ワークショップ 「蝦夷桜屏風」右隻 2/11 7名
成 果	日本画表現の多様性を紹介することができた。
課 題	逆に古典の日本画名作の紹介をする機会も必要である。
今後の方向性	新たな作品表現と、伝統的な表現を偏らないように紹介していく。

項 目	さしがさ花の花ひらくころ『半谷学展』の開催（新規）
目 的	地球環境をテーマに立体作品を制作する美術家を紹介する。
取組実績	・会 期 2月22日～3月31日（31日間） ・観覧者数 高校生以上 192名 小中学生以下 8名 合計 200名 ・作品解説会 2/22 12名
成 果	捨てられたり、忘れ去られた傘をモチーフに花を作り出し、展示会場一面のインスタレーションを作り出した。
課 題	インスタレーション（空間展示）は会場に来て作品のなかに入らないと感じられないため、いかに観覧者を呼び込むかが問題である。
今後の方向性	今後も優れた作品を紹介していく。

③移動展の開催

項 目	『楽しい子どもの美術展』の開催（継続）
目 的	国内・国外の幼児・児童・生徒の絵画・ポスター・書などの作品を紹介することで、他の地域や国の地域性や文化を紹介する。
取組実績	・会 期 5月3日～5月27日（21日間） ・観覧者数 高校生以上 185名 小中学生以下 55名 合計 240名 ・楽しい子どものワークショップ 「版画を刷ってみよう」5/11（参加8名）
成 果	ほかの国や地域の児童生徒の作品を鑑賞する機会を提供できた。
課 題	小中学校への一層の周知、企画展の同時開催などにより、観覧者増を図る。
今後の方向性	今後も他地域や外国の子どもたちの作品を鑑賞する機会を提供していく。

項 目	第60回北海道書道展 網走移動展の開催（継続）
目 的	第60回北海道書道展の移動展を開催し、書道作品を広く紹介することで、「書写」から芸術表現での「書」への移行を紹介する。
取組実績	・会 期 6月29日～7月21日（20日間） ・観覧者数 高校生以上 171名 小中学生以下 8名 合計 179名 ・解説会・揮毫会 7月14日 講師 石原北陽氏（参加44名）
成 果	道内最大規模の書道作品展を紹介することで、道内書道芸術の一端を紹介できた。また、観覧者数は横ばいであるが、解説会・揮毫会の開催により、観覧者の興味・関心を引くことができた。
課 題	高校生などの書道作品の展示や著名な書家の作品展示も検討が必要である。
今後の方向性	道内で、北海道書道展の移動展を開催しているのは函館と網走の2箇所のみであり、広く作品を紹介するため今後も継続して開催していく。

項 目	第66回写真道展・第37回学生写真道展の開催（継続）
目 的	北海道内の写真公募展である『第66回写真道展・第37回学生写真道展』移動展を開催し、写真作品の鑑賞機会を提供する。
取組実績	・会 期 11月30日～12月15日（14日間） ・観覧者数 高校生以上 64名 小中学生以下 0名 合計 64名 ・作品解説会 12月8日 講師 佐々木砂宗氏（参加2名）
成 果	道内最大規模の写真展を紹介することができた。
課 題	市内から写真道展への出品がないためと思われるが、鑑賞者が伸び悩む状況であり、関心を高めるための普及事業や広報活動などの取り組みが必要。
今後の方向性	写真の普及のため継続して、移動展を開催していく。

④講座・教室の実施

項 目	出張美術館の実施（継続）		
目 的	学校等に出張して作品を展示、鑑賞してもらうことで、児童・生徒・学生の美術に対する興味・関心の高揚を目指す。		
取組実績	第三中学校	8/23～8/30（ 8 日間）	387 名
	南小学校	9/3～9/10（ 8 日間）	335 名
	西が丘小学校	9/12～9/20（ 8 日間）	86 名
	西小学校	10/1～10/8（ 8 日間）	171 名
	網走小学校	10/9～10/16（ 8 日間）	349 名
	東京農大文化学術展	10/12～10/14（ 3 日間 ）	728 名
	白鳥台小学校	10/25～11/5（ 12 日間）	59 名
	東小学校	11/8～11/15（ 8 日間）	80 名
	第五中学校	11/19～11/26（ 8 日間）	48 名
	第四中学校	12/6～12/17（ 12 日間）	107 名
	合計 2,350 名		
成 果	多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供できた。		
課 題	今後も、実施時期・期間について、学校との調整を充分に行う必要がある。		
今後の方向性	今後も継続して多くの学校で開催していく。		

項 目	研修等の受入（継続）
目 的	職場体験や校外学習の受入を行い美術館を身近に感じてもらう機会を設け、美術活動の普及拡大を目指す。
取組実績	講座 高校生オープン講座 通 年 66 名
	一般市民オープン講座 通 年 2 名
	子どもオープン講座 10/22・27 3 名
	若手アーティスト作品公開 3/31 4 名
	研修 梱包講習 雄武町図書館 11/19 1 名
	鑑賞 クリオネ学級 3 回 11 名
	鑑賞学習 若葉幼稚園 5/15・11/5・2/14 135 名
	鑑賞学習 東京農業大学 5 月 22 日・23 日 49 名
	鑑賞学習 佐呂間町社会福祉協議会 6 月 13 日 51 名
	鑑賞学習 北見市おもちゃライブラリー 6 月 20 日 14 名
	鑑賞学習 日体大附属高等支援学校 7 月 4 日 5 名
	鑑賞学習 札幌大谷大学（日本画） 7 月 14 日 8 名
	鑑賞学習 網走幼稚園 9 月 11 日 65 名
鑑賞学習 美幌北中学校美術部 9 月 16 日 19 名	
鑑賞学習 北網圏北見文化センター 2 月 18 日 2 名	
成 果	多くの鑑賞者、研修の受入を行い、美術館を広く知ってもらう機会となった。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も鑑賞学習や職場体験などを積極的に受入していく。

項 目	オホーツク・アートセミナー（美術部門）の支援（継続）
目 的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術への関心を高めるとともに、技術の向上を図る。
取組実績	デザイン講座 2月8日・9日 参加者 21名 立体講座 3月予定 新型コロナウイルスにより中止
成 果	多くの方が受講し美術活動の活性化の契機となった。
課 題	講座終了後も継続して創作活動ができるよう支援する。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

（４）博物館の充実

項 目	特別企画展「網走の街並み展」の開催（新規）
目 的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・「網走の街並み展」の開催 令和2年2月1日～3月31日 入場者1,017名
成 果	網走の街並みが形成されていく過程を紹介することができた。
課 題	小中学校の児童・生徒の見学機会提供のため、学校との連携強化が必要である。
今後の方向性	テーマを変えながら継続して開催し、市民が郷土の歴史を見つめ直す機会とする。

項 目	特別企画展「網走の化石展」の開催（新規）
目 的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・「網走の化石展」の開催 令和元年8月1日～9月29日 入場者2,509名
成 果	郷土の大地の成り立ちを化石の変遷を通して紹介できた。
課 題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要である。
今後の方向性	市民や観光客等が網走の自然に触れる機会として、テーマを変えながら開催していく。

項 目	剥製標本作製、遺跡出土資料の複製品作製（継続）
目 的	網走の歴史・自然資料を通して、郷土を身近に学び親しむ場を提供する。
取組実績	・剥製標本作製 ウミネコ、メボソムシクイ、ドブネズミの剥製3点（博物館、モヨロ貝塚館展示） ・モヨロ貝塚出土資料の複製品作製 骨製の垂飾 1点（東京大学考古学研究室所蔵、複製品はモヨロ貝塚館展示）
成 果	郷土資料の収集・公開により、郷土の歴史と自然の豊かさを伝えることができた。
課 題	収蔵資料の有効的な活用のため、限られたスペースでの展示方法の研究が課題。
今後の方向性	郷土の自然・歴史資料の収集・整理及び資料修理等をすすめる。

5 文化財

(1) モヨロ貝塚の保護と活用

項 目	モヨロ貝塚PR事業（継続）
目 的	モヨロ貝塚PRにより、モヨロ文化を街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	・ 広報活動の充実（ホームページ、新聞・雑誌等での案内、案内チラシ配布） ・ 市内道路等10箇所での案内看板の設置及び市内外8箇所での出土品等の展示 ・ 女満別空港でのモヨロ貝塚の電照案内看板の掲示 ・ モヨロまつりの開催：令和元年9月22日（日） 参加者1,020名
成 果	旅行雑誌等での案内、モヨロまつりの開催を通じて、モヨロ貝塚をアピールできた。
課 題	各種の広報活動の継続的な実施と観光関係機関等との一層の連携が必要である。
今後の方向性	多様な広報活動を一層すすめ、幅広い年代層への広報を図っていく。

項 目	モヨロ文化講座開催事業（継続）
目 的	モヨロ貝塚を学ぶ機会の充実を図り、モヨロ文化の一層の周知と理解に努める。
取組実績	・ モヨロ文化市民講座の開催 日時等：令和元年10月20日（日）14：00～15：30 参加者131名 テーマ：モヨロ貝塚と大陸文化 講 師：臼杵 勲氏（札幌学院大学教授）
成 果	モヨロ貝塚と大陸文化との関係について学び、モヨロ文化の理解が深められた。
課 題	最新の研究成果を踏まえ、モヨロ文化を解説できる講師の選定が重要。
今後の方向性	講座内容の充実を図り、モヨロ文化の理解と周知に努める。

(2) 文化財の保護と周知

項 目	博物館重要文化財指定推進事業（継続）
目 的	博物館建物の重要文化財指定を目指し、建物の文化財的な価値を高める。
取組実績	・ 博物館建物の登録有形文化財への登録 ・ 登録記念の田上建築の講演会等の開催、「博物館建物ガイドブック」の刊行
成 果	有形文化財への登録を通して、博物館建物の文化財的価値をアピールできた。
課 題	文化財的価値を充分検討しながら、建物保全に努めることが重要である。
今後の方向性	田上建築の特別展を開催して、建物の文化財的価値の周知を図る。

項 目	博物館網走監獄重要文化財耐震診断補助金（継続）
目 的	博物館網走監獄の重要文化財建造物の耐震診断調査を支援する。
取組実績	・ 博物館網走監獄の重要文化財建造物の耐震診断調査の実施 期間：平成31年4月～令和2年3月 内容：建物の耐震実験、補強案の策定、報告書の刊行等
成 果	博物館網走監獄の重要文化財の耐震診断を行い、補強案を策定した。
課 題	文化財的な価値を十分保全した耐震補強案の検討が必要である。
今後の方向性	博物館網走監獄との協議を行いながら、重要文化財建造物の保全に努める。

6 スポーツ

(1) スポーツ施設の整備、利用促進

項 目	陸上競技場の備品整備（拡充）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	3種公認ハードル更新（95台）、棒高用上面マット更新、ハードル用台車改良委託
成 果	備品整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	トラック舗装の摩耗等が進んでおり、施設の改修や必備用具の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	レークビュースキー場の整備（拡充）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	リフトワイヤーケーブル交換、高圧受電設備改修、リフト常用制動機修理
成 果	施設の整備により、利用者の安全確保が図られた。
課 題	老朽化が進み、施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	スポーツ・トレーニングフィールドの遊具更新（拡充）
目 的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	ゴーカート2人乗更新（1台）、ゴーカート1人乗更新（1台）
成 果	備品整備により、利用者の安全性の確保、施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	屋内ゲートボール場の整備（拡充）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	人工芝の全面張替
成 果	整備により、利用者の利便性と安全性の確保、施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

(2) スポーツ活動の促進

項 目	各種スポーツ教室の開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	・市民硬式テニス教室 5名 6日間 延 24名 ・市民バドミントン教室 8名 6日間 延 39名 ・市民スキー教室 中止（雪不足のため） ・冬休みスケート教室 24名 4日間 延 87名 ・初心者スノーボード教室 中止（雪不足のため）
成 果	子どもから大人まで各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験することができる教室として好評を得ている。
課 題	参加者が少ない種目については、そのあり方についての検討が必要である。
今後の方向性	市民ニーズに対応するため、種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に努める。

項 目	いきいき健康体力づくり教室の開催（継続）
目 的	高齢者が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 教室を開催（教室によって実施回数が異なる） 参加者数 38 名 14 回実施 延 267 名
成 果	高齢者の体力維持、健康づくりという点で毎年参加者から好評を得ている。
課 題	高齢者が、安全で理解しやすく、一年を通して継続して参加できる教室内容とすることが必要である。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新種目の検討、運営のノウハウを研究しながら継続する。

項 目	オホーツク歩くスキーの集いの開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめる冬のスポーツ行事の開催
取組実績	・ 開催日 令和 2 年 2 月 16 日（日） ・ 会 場 道立オホーツク公園「てんとらんど」 ・ 参加者数 32 名
成 果	市民に対して、気軽に取り組める冬季スポーツの普及を図ることができた。
課 題	参加者の増加につなげるため、歩くスキーの普及拡大が必要である。
今後の方向性	運動不足になりがちな冬季に気軽に取り組むことができるスポーツの普及を図るため、今後も継続する。

項 目	こどもスポーツチャレンジ事業（継続）
目 的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上を図るとともに、普段接することのない子ども達がスポーツを通じて、協調性を身につけることを目指す。
取組実績	参加者数 40 名 延べ 10 回 318 名
成 果	運動する機会の少ない子ども達には、継続的に運動するきっかけとなり、参加者には満足度の高い事業となっている。
課 題	子ども達のニーズの把握や、情報収集・研修が必要。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新たな種目の導入などについて検討を行い、継続して参加してもらえよう魅力ある事業としていく。

項 目	夢の教室事業（継続）
目 的	「夢先生」が自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などについて講演と実技を通じて子ども達に伝える。
取組実績	市内小学校 9 校（5 年生。一部の小学校では 5～6 年生） 12 コマ 291 名受講 ・ 8 月 28 日 講師「矢代 直美（バスケットボール）」 網走小学校、西が丘小学校 ・ 8 月 29 日 「大島 めぐみ（陸上長距離）」 網走小学校、南小学校 ・ 8 月 30 日 「佐藤 久佳（水泳）」 白鳥台小学校、南小学校 ・ 11 月 19 日 「松田 丈志（水泳）」 潮見小学校、西小学校 ・ 11 月 20 日 「鶴岡 剣太郎（スノーボード）」 潮見小学校、呼人小学校 ・ 11 月 21 日 「菊池 沙都（アイスホッケー）」 東小学校、中央小学校
成 果	オリンピック出場選手等を「夢先生」として講師に招き、これまでの歩みや体験談等の話を聞くことにより、子ども達が自分の夢について考える時間を得ることができた。
課 題	子ども達の関心を高めるため、著名な講師の派遣について依頼を行っていく。
今後の方向性	平成 28 年度以降、市内全校で実施しており、今後も継続して実施する。

項 目	障がい者スポーツ教室の開催（継続）
目 的	障がいのある方が、それぞれの状態に応じたスポーツを行うことにより、活動の場を広げるとともに、身体を動かす喜びを体感してもらい、さらには健康増進・体力向上に繋げていく取り組みを行う。また、スポーツ大会に出場できる選手の育成を目指す。
取組実績	障がい者とその家族等を対象としたスポーツ教室の開催 昼の部 11 回実施 参加申込者 43 名 延参加者 249 名 夜の部 11 回実施 参加申込者 12 名 延参加者 78 名
成 果	参加した障がい者にとって定期的に運動する機会が増え、参加者及び関係者からは好評価を得ている。
課 題	障がい者スポーツの専門的知識を持った指導者の育成。
今後の方向性	スポーツ推進委員と教室の内容を研究し、継続して開催していく。

項 目	日体大連携スポーツ教室の開催（継続）
目 的	日本体育大学及び日本体育大学附属高等支援学校と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止
成 果	
課 題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

（３）活動組織や指導者の育成

項 目	活動組織や指導者の育成（継続）
目 的	スポーツ協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子ども達の育成支援を行う。
取組実績	・地域やスポーツ団体との連携（継続） スポーツ協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数 21 団体 団員数 593 名 指導者数 126 名
成 果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、市教委主催のスポーツイベントなども通じ、より良い事業展開が図られた。
課 題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題を抱えている。
今後の方向性	各団体及び指導者に対する効果的な支援内容を研究しながら、継続して必要な支援を行っていく。

項 目	スポーツ少年団活動支援事業（継続）
目 的	スポーツ少年団が全道・全国大会に出場する際の交通費を助成することで、活動経費の負担軽減を図り、子ども達のスポーツ団体への加入を促進する等、スポーツ少年団活動の充実・活性化を図る。
取組実績	全国大会 2 件 計 176 千円 全道大会 8 件 計 3,064 千円 合計 3,240 千円
成 果	遠征費助成は、スポーツ少年団の活動支援に大きな効果があった。
課 題	特になし
今後の方向性	スポーツ少年団におけるスポーツ振興のため助成を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。

項 目	日体大屋内直線走路利用促進事業（継続）
目 的	冬季間における陸上競技等のトレーニング施設が不足していることから、日本体育大学附属高等支援学校の屋内走路を活用し、市内のスポーツ団体等の活動の場を広げる。
取組実績	陸上競技 3 団体 利用回数延 20 回 延 394 名
成 果	天候の影響を受けない屋内走路を利用することにより、冬季間のみならず練習内容の充実が図られた。
課 題	日本体育大学附属高等支援学校との利用調整が必要。
今後の方向性	関係団体等に継続して周知し、更なる利用促進を図る。

（４）スポーツ合宿や各種大会の誘致

項 目	ラグビーワールドカップキャンプ地施設整備（新規）
目 的	ラグビーワールドカップ公認キャンプ地として必要な施設の整備を図る。
取組実績	トレーニングルーム、チームルーム等の設置、トレーニング器具整備、芝生整備、各施設の備品整備等
成 果	RWC 2019 組織委員会の公認キャンプ地ガイドラインおよびラグビー日本代表から求められる条件を満たすトレーニングルームおよびトレーニング器具、チームルーム等を整備した。 ラグビー日本代表およびフィジー代表が網走合宿を行い、優れた合宿地として周知が図られ、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。
課 題	特になし
今後の方向性	より多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。

項 目	ホストタウン構想推進事業（拡充）
目 的	東京オリンピック・パラリンピックにおいて、オーストラリアの 7 人制ラグビーとパラレーサー（車いす陸上）及び韓国の陸上長距離の「ホストタウン」に登録し、事前・直前の合宿誘致とともに、大会参加国・参加選手との交流や日本人オリンピック等との交流を行うことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。
取組実績	韓国～2018 年 7 月に大韓陸上連盟と協定を締結。2019 年は合宿および市民交流事業として小学生陸上教室が行われた。
成 果	市民交流事業等を通じて、東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成が図られた。
課 題	オーストラリアに対する合宿誘致にあたっては、相手国の状況などもあり円滑に進んでいない。
今後の方向性	- 引き続き大韓陸上連盟の合宿誘致とともに市民交流に努める。 - オーストラリア 7 人制ラグビーと車いす陸上競技についても継続して誘致に取り組む。 - 日本人オリンピック・パラリンピアンによる交流事業を実施し、市民の東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成を図る。

項 目	スポーツ合宿受入対策事業（継続）
目 的	国内トップアスリートをはじめ多くの競技者の合宿を受入れることにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。
取組実績	ラグビー 8 団体 462 名 延 4,724 名 陸上競技 48 団体 753 名 延 7,765 名 その他 8 団体 197 名 延 1,620 名 計 64 団体 1,412 名 延 14,109 名
成 果	・ラグビー・陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。 ・合宿人数は、ラグビートップリーグの開催日程の変更等により、昨年度と比べて若干減っているが、ラグビー、陸上競技とも当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。 ・多くのアスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。
課 題	毎年受け入れ人数に多少の増減があるため、安定した合宿者の誘致が課題。
今後の方向性	より多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。

項 目	障がい者スポーツ合宿誘致事業（継続）
目 的	日本障がい者スポーツ協会等の競技団体やトップアスリートへの誘致活動を積極的に実施することにより、合宿誘致を図る。
取組実績	・令和元年度全道福祉の学習推進セミナー「障がい者スポーツ～みんなが楽しめるスポーツを知ろう～」に参加 ・第 39 回北海道障がい者冬季スポーツ大会視察
成 果	各団体に対し、網走市のスポーツ合宿環境等について、情報提供を行うことができた。
課 題	合宿受け入れ体制（バリアフリー化の推進など）の充実を図る必要がある。
今後の方向性	障がい者スポーツ関係団体等に対し、誘致活動を継続する。

項 目	全国・全道大会の開催支援（継続）
目 的	全国・全道大会開催を支援することにより、大会の円滑な運営を図るとともに、各種目の競技力向上と普及、さらには地域の活性化を図る。
取組実績	・ホクレンアイスダンス・チャレンジ 2019 網走大会（継続） 選手 392 名 観客数約 700 名 ・第 74 回国民体育大会ボート競技北海道予選会（継続） 選手 69 名 監督・役員 134 名 ・北海道学生野球春季リーグ戦（継続） 参加数 200 名 ・北海道学生野球秋季リーグ戦（継続） 参加数 200 名 ・網走地方剣道大会（継続） 参加数 516 名 ・第 5 回道東ジュニア室内水泳競技大会（継続） 参加数 200 名 ・第 50 回記念 全国ママさんバレーボール大会北海道予選会 参加数 300 名 ・第 92 回北海道陸上競技選手権大会 参加数 800 名
成 果	各競技団体が主体となり全道大会が開催され、多くの競技者・関係者が訪れた。レベルの高い大会が行われ、競技力の向上と各団体の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課 題	大会開催の支援にあたって、事前に大会規模の把握が必要なこと、また、大会数・規模が毎年変動することへの対応。
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化を図るため、今後も支援をしていく。

7 国際化対応

(1) 国際化に対応した教育や人材の育成

項 目	英会話指導員の配置（継続）
目 的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の英会話にふれることで、英語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	・ 保育園・幼稚園・小学校での英会話指導 小学校： 9校 657時間15分 幼稚園： 5園 68時間20分 一般・サークル支援 13 時間 合計 738 時間 35 分
成 果	英会話指導は、教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。
課 題	各小学校、幼稚園、保育園での外国語活動への対応について、学校などの関係機関と連携しながら調整を図る必要がある。
今後の方向性	小学校の外国語教育の必修化を踏まえ、子どもたちの英語力を高め、国際理解を深める有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

項 目	国際理解体験事業（継続）
目 的	幼少期から生の外国語に触れたり、外国の伝統的な行事を体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	・ 世界を旅しよう！～網走で外国を体験～ 6月22日（土） 午後1時～3時 小学生 30名、ボランティア 14名 エコセンター2000 管内在住外国人が母国紹介ブースを開設し、参加者は外国人とコミュニケーションを図りながら理解を深める。クイズやゲームなど遊びを交えて学習をより深める。 ・ ハロウィーンパーティー 10月18日（金） 午後6時30分～8時30分 小学生 189名、ボランティア 78名 エコセンター2000 仮装、お化け屋敷、各種ゲーム、キャンディ投げなど (平成30年度：世界を旅しよう 27名、ハロウィーン 180名)
成 果	外国の伝統的な文化・風習のほか、世界のさまざまな国を体験・理解する学習機会として定着している。農大留学生、管内ALT・市民ボランティアの協力のもと、遊びを通じた国際理解体験の機会を創出できた。
課 題	ボランティアと参加者が相互に外国文化に触れる機会となる内容・手法の研究。
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多く寄せられており、引き続き取り組んでいく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 教育長および教育委員の就任状況

教育長：三島 正昭（平成28年 4月 1日就任）
 委員：富永 雄一（平成24年10月 1日就任、職務代理 平成30年4月1日就任）
 中山 真弓（平成26年 4月 1日就任）
 益村 公人（平成30年 4月 1日就任）
 伊藤 亮人（令和元年 7月 1日就任）
 杉本 匡規（令和元年 6月30日辞任）

2 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議(教育委員会議)は、定例会のほか、必要がある場合には、臨時会を開催し、教育委員会の決裁を要する案件(議案)について、審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

令和元年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年1月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席 委員数	案 件	審議 結果
1	平成31年 4月1日	4名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 平成31年4月1日付校長・教頭人事について	原案可決 報告承認 〃
2	平成31年 4月24日	3名	議案第1号 網走市立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部改正について 議案第2号 網走市立図書館条例施行規則の一部改正について 議案第3号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第4号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第5号 網走市美術館協議会委員の委嘱について 報告第1号 平成30年度卒業式・平成31年度入学式の状況について	原案可決 〃 〃 〃 〃 報告承認
3	令和元年 5月30日	3名	議案第1号 財産の取得について 議案第2号 平成31年度一般会計補正予算要求について 議案第3号 学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第4号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第6号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第7号 網走市学校運営協議会委員の任命について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃
4	令和元年 6月20日	2名	報告第1号 令和元年度網走市社会教育推進計画について 議案第1号 網走市社会教育委員の委嘱について 議案第2号 網走市教育委員会委員の辞職について	報告承認 原案可決 〃

5	令和元年 8月19日	4名	報告第1号 登録有形文化財（建造物）の答申について 議案第1号 網走市教育委員会事務点検・評価報告書の提出について 議案第2号 小学校および中学校教科用図書の採択について 議案第3号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第4号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第5号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 議案第6号 財産の取得に係る契約の一部変更について 議案第7号 平成31年度一般会計補正予算要求について	報告承認 原案可決 〃 〃 〃 〃 〃
6	令和元年 10月21日	3名	議案第1号 国旗及び国歌の適切な指導に関する通知について 議案第2号 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果の公表について 議案第3号 平成31年度補正予算要求について	原案可決 〃 〃
7	令和元年 11月12日	4名	議案第1号 網走市附属機関条例及び報酬職員給与条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
8	令和元年 11月27日	4名	議案第1号 網走市西地域プールに係る指定管理者の指定について 議案第2号 平成31年度補正予算要求について	原案可決 〃
9	令和元年 12月16日	4名	議案第1号 網走市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 議案第2号 令和2年度教育予算の要求について	原案可決 〃
10	令和2年 2月10日	4名	議案第1号 平成31年度補正予算要求について 議案第2号 令和2年度教育予算について 議案第3号 令和2年度教育行政推進方針について 議案第4号 網走市学校運営協議会の設置について 議案第5号 令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」の公表について	原案可決 〃 〃 〃 〃
11	令和2年 2月26日	3名	議案第1号 新型コロナウイルス感染症に関する対応について	原案可決
12	令和2年 2月28日	4名	議案第1号 新型コロナウイルス感染症に関する対応について	原案可決
13	令和2年 3月5日	2名	議案第1号 新型コロナウイルス感染症に関する対応について	原案可決
14	令和2年 3月13日	4名	議案第1号 令和2年4月1日付校長人事の内申について 議案第2号 令和2年4月1日付教頭人事の内申について	原案可決 〃
15	令和2年7 3月30日	3名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第2号 網走市学校運営協議会規則の一部改正について 議案第3号 網走市立学校管理規則の一部改正について 議案第4号 教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の定について 議案第5号 網走市立学校における働き方改革推進プランの改定について 議案第6号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 令和2年4月1日付校長・教頭人事について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 報告承認 〃
※上記のほか、協議会・話し合い等も開催している。				

3 その他の主な活動

(1) 各種会議への出席等

教育委員は、教育委員会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行った。その主なものは、次のとおりである。

時 期	区 分	概 要 ・ 出席 者	
平成 3 1 年 4 月 6 日 ・ 8 日	入学式	小学校 6 校、中学校 2 校、延べ 8 名	
令和 2 年 1 月 1 2 日	成人式	教育長、教育委員（場所：エコセンター）	
※新型コロナウイルス感染症拡大予防により、卒業式は P T A 会長以外の来賓は出席しないこととした。			
※上記のほか、教育委員会が主催する各種イベント等にも出席している。			
区 分 ・ 会 議 名		出席者	時 期
オホーツク管内 教育委員会協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会	教育長他	令和元年7月2日
	網走ブロック総会・研修会（網走市）	教育長他	令和元年7月18日
	教育長研修会（紋別市）	教育長	令和元年10月7日～8日
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（函館市）	教育委員	令和元年8月22日
	教育長会春季総会（留萌市）	教育長	令和元年5月10日
	教育長会秋季総会（帯広市）	教育長	令和元年11月6日
※上記のほか、各種の会議等にも出席している。			

(2) 教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

令和元年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

＜案件以外で説明したもの＞

- ・行政事務報告（市議会に係る報告を含む）
- ・各種会議・行事・イベント等の開催案内（毎月）
- ・学校経営報告について（毎月）
- ・熊出没、不審者情報等について（随時）
- ・今後の重点施策について（R01.11月）

4 教育委員による自己点検

令和元年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

(1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。

- ・ 校長会、教頭会、PTA役員などとの交流を通じ、互いに情報交換できる機会が増えてきており、特に、校長会、教頭会との交流は定例となり、垣根の無い情報や意見交換がなされていることを実感しております。さらに相互理解、共通理解のため、PTA や地域の方々とのコミュニケーション量を増やすため、参観日、PTA 総会や各学校のおやじの会、読み聞かせの会、学級懇談会などにおいて、情報共有、情報交換の場を設けてまいりたい。教育活動の適切な実施にあたり、地域の教育委員との積極的な情報交換に努め、今後、学校内外で起る諸問題に、迅速に対応出来る様な体制づくりを行ってまいります。
- ・ 学校教育においては、益々地域社会との連携が必要な時代になってきたと思います。社会の良識を数多く学ぶためにも、地域の方々とのふれあいは子どもたちにとって必要であるため、先生方のみならずコミュニティ・スクールへ参加される地域住民の方々と教育委員会が想うベクトルを一致させる事が大切と考えます。これら 3 者が自由に意見交換が出来る場をつくるべきと考えます。

(2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。

- ・ 社会教育に係る協議会のみなさんと情報交換は、令和2年度には実施されるべきと考えます。
- ・ 各学校のPTA主催による講演会などに参加させていただき、子どもの健康や体力についての知識向上に協力させていただいています。また、入学式・卒業式への参加は、各学校の特色を知る機会として大きな意義を感じています。
- ・ とても良い取り組みが多く行われており、より多くの市民の皆さんに知っていただければと思います。
- ・ スポーツ合宿・芸術文化合宿誘致活動は公演会や大会の市民の観覧にもつながり、芸術文化の発展、経済活動はもちろんのこと、子供たちの教育にも大きく寄与しているものと考えます。一方で、姉妹都市交流や観光事業など、教育性の高い事業が他部署で行われており、部門間の垣根を超えた協力により、更に意義や効果の高いものとなると考えます。
- ・ 社会人に対する学びの企画はよく活動されていると思います。受益者である参加市民の数をさらに膨らませるための広報活動が必要だと思います。どのような情報発信が良いのかこれに重きを置いて取り組んで行ければと思います。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・ 平成22年度から、社会教育部では「あばしり学」講座が行われています。
学校教育部、社会教育部ともに、市民要望等に対応した、意欲ある新たな取り組みが行われており、参加者の高い評価が感じられました。
- ・ 社会教育分野の活動について、市民ニーズに応えられるよう、更なる充実を図ることが望ましいと感じます。
- ・ 学校の儀式的行事等における国旗・国歌の指導については、改善が図られ定着いたしました。引き続き、学校・PTA・学校運営協議会等と連携を図り、円滑実施に努めたいと思います。
- ・ 学校や教育委員会施設の状況を把握するための、訪問ができませんでした。
昨今の状況を鑑みて現場を訪問するよう努力します。
- ・ 各学校の式典やオープンスクールなどに参加することで、学校現場から状況を把握するよう努めます。
- ・ スポーツ施設やスポーツ行事の企画・開催に参画することで、市民や児童生徒の健康体力の向上に協力させていただいています。
- ・ 市民や児童生徒が健康で安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭・学校と連携を強化し、取り組みを引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思います。
- ・ いじめ等の事案が発生した場合の対応手順書が整備され、学校教育への危機管理体制強化には役立ったと思われます。
- ・ 今年度は新型コロナウイルスにより学校行事等（特に卒業式）の円滑な実施が妨げられ、児童生徒また保護者の方々に悲しい思いをさせることになりました。今後コロナ禍において、より良い形式などを検討していきたいと思います。

（４） 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、心の教育の充実努めたい。

- ・ 児童生徒の学力向上に関しては、諸先生方の努力の結果が出てきたと感じています。
更なる向上と、引き上げてきた現状を今後維持していくための取り組みが必要であると思います。
- ・ 児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増える
と良いと思います。また、道徳の時間の授業公開も年々拡大してきていますので、今
後も更に発展させてほしいと思います。
- ・ 小学生の英語授業導入については、ALT以外にも語学に堪能な市民に協力を依頼
するなどして英語に慣れ親しむ機会が増えると感じています。
- ・ 学校給食を通じた食育の推進・地産地消・食物アレルギー対応に、引き続き努めて
ほしいと思います。
- ・ 学力向上を含め、心の教育、食物アレルギーなどについては、家庭との協力が不可
欠であり、学校と家庭との結びつきが重要であると感じています。児童生徒、保護者
への信用・信頼・安心を互いに築けるよう、学校と家庭の距離感をなくすよう努めて
ほしいと思います。
- ・ 平成24年7月に児童・生徒の学力向上を目指すために、網走市学力向上推進委員
会を設置し、同年10月に校長会・教頭会が「学力向上宣言」を教員や市民に発信し
たところです。毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、本年より広報あ
ばしり及び市のホームページにおいて公表しました。このことにより、学校・家庭が
一体となって児童・生徒の学習への取り組みが改善され、市内児童生徒の更なる学
力向上を目指します。
- ・ 引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼・保、小中高連携の推進、PTA・地域

との連携による基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた様々な取り組みが必要であると思います。

- ・ 市内児童及び生徒の読書量において、一部学年においては全国平均から大幅に下回っている結果は、学力向上にとって非常に危惧すべき事案であると思います。今後は、この事の改善について支援してまいります。
- ・ 児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表し、学校・PTA・地域が一体となって、更なる体力向上を推進できる体制の構築を行ってまいります。また、学力だけではなく、体力についても、学力向上推進委員会と連携を密にし、今後の網走を支えていく子どもたちを育てていかなければならないと思います。
- ・ 大切な学校教育の人的資源である先生方のメンタルケアを行う仕組みづくりが必要と思われます。精神的、内面的にも医療従事者に相談等できるとなると良いと思います。
- ・ 教育委員会の中でも、学力・体力等の先進的な取り組みをしているところの視察や研修などを行うことを検討してまいりたいと思います。
- ・ 休校により自宅で過ごす時間が増えたこともあり、スマートフォンやタブレットなど ICT 機器に触れる機会も以前にも増して増えていると考えます。いわゆる、「ネットいじめ」に対応した道徳教育、特に SNS やゲームの通信機能等を介在した情報モラル教育はもちろん、IT リテラシーの向上を図り、コミュニケーションや情報端末としての有効活用で、学力の向上にも寄与する取り組みがより一層必要と考えます。

(5) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・ 各学校の代表が参加して自校の魅力を披露・発表する機会を設けてもよいのではないかと感じます。それにより、画一的な学校づくりを打破する材料を得られるのではないかと考えます。
- ・ 市内で始まったコミュニティ・スクールについて、校長会、教頭会などと連携し、地域の方々と学校との繋がりをバックアップして参りたいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの状況報告を受けながら、今後の環境整備充実のためのフィードバック情報を関係者と議論してまいります。
- ・ 自分自身が過去に PTA 役員を務めていましたが、学校や地域の実情、特徴を改めて棚卸したことはありませんでした。コミュニティ・スクールの話し合いの場において、そのような投げかけをし、個人の持っている認識、情報を共有することで、議論の活性化、相互理解の深化が図られ、より魅力ある地域づくりにつなげてまいりたい。

(6) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取り組みをしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・ 教育委員会は教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行うことから、今後も積極的に研修会や講演会に参加するなど自己研鑽に努める必要があります。
- ・ 学校生活において、日々起り得る問題に積極的に取り組んでいる他都市の教育委員会や団体から指導及び情報を得て役立てるよう努めたいと思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。引き続き、他市の教育委員会との意見交換の場への積極的な参加に努めたい。新型コロナウイルス感染拡大予防から今後しばらくは、他市教育委員会との意見交換の場が制約されると予想されるので、教育委員会を通じた様々な取り組みの情報収集に努めます。

(7) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月1日より施行されました。網走市総合教育会議を5月に設置し、会議の運営と策定についての協議を進め、8月に「網走市教育大綱」を策定しました。引き続き、網走市の教育の更なる向上に努めます。
- ・ 毎月開催される教育委員会会議の開催日程、会議進行は適切であると感じます。今後も効率よく実施し、必要に応じて協議会などを開催すると良いと思います。引き続き、更に円滑な議事進行となるよう、資料の事前配布や全委員が出席できるよう開催日を調整することが必要であると思います。
- ・ 教育委員会会議や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対し、「なぜ情報発信をするのか」を考え、それを踏まえて、「どのようにしていくか」「なにをするのか」を考えることが情報発信に必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信について、地域住民や保護者への広報活動を更に広げ継続することが良いと思います。
- ・ これまでに総合教育会議により、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。
- ・ 学校教育施設、社会教育施設の状況を把握するため、視察・研修する機会を次年度以降持ちたいと思います。
- ・ 教育委員会と学校、地域住民、他都市の教育委員会とも連携し、情報交換などの交流を深めていくべきだと思います。
- ・ 各教育計画策定において、わかりやすい表現で広報する事が教育委員会活動を市民の皆様へ周知させる第一歩だと思います。
- ・ 給食民間委託案件について、市民への情報提供の在り方に不満が生じたことは真摯に反省すべき点でありました。今後は、様々な案件に対しても情報共有の在り方には慎重に議論してまいります。

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（令和2年8月10日）』

網走市教育委員会外部評価委員

東京農業大学生物産業学部 教職課程兼担食品香粧学科 准教授 後藤 広太郎
元網走市社会教育委員 山本 成治

1 総 評

本報告書は、網走市における教育行政の執行にかかる外部評価結果について報告するものであります。結論として、網走市教育委員会の令和元年度活動における指摘事項はございません。

以下、特に注目した教育委員会の活動について、「教育委員による自己点検」と「教育事情に関する最近の動向（文部科学省の大学教員養成課程に対する動き）」とを照らし合わせて検証報告および事例を基にした提案をいたします。

2 教育委員会の活動を大学の視点から検証する

2015年に実施された「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）」の結果から、『科学的リテラシー』『数学的リテラシー』が過去最高の順位に、『読解力』が前回の4位から8位となったことが報告されております（2018年の調査に関しては、文化的多様性に対する価値観を一つの尺度で測定することへの懸念から、参加を見送っています）。『読解力』における設問は、情報化社会における読み方の進化を反映させたものとされており、「様々な情報を比較し、クリティカルな視点で見極める能力」が今後の社会において必要との前提から、我が国の今後の「学力観の変化」に関する重要ポイントの一つとして明確となっております。

上記の調査と同一内容ではありませんが、学力・学習状況調査に関しては、2017年実施の結果において北海道が複数科目において全国平均を超えたことが報告されており、今後の躍進が期待されます。個人的には、学力テストのスコアと順位にばかりとらわれず、子ども自身の学習への意欲を維持することが重要と考えており、網走市教育委員会の取り組みはこの点も押さえた上で対策を検討していると判断しております。

「学力向上対策事業」、「東京農業大学学生・網走市立学校連携事業」等について

「学力向上」への継続的な取り組み

前年度同様、「網走市学力向上推進委員会」が機能している点が高く評価されます。単なる情報交流にとどまらず、「教員の指導力を含めた総合力の向上」という明確なノルマに向けて実際に活動してきたプロセスおよび継続性が、特に評価されるポイントと思われます。

「学力向上フォーラム」の取り組み

網走市学力向上推進委員会と共催し、オホーツク管内学校づくり研究会等の協力を得て、「学力向上フォーラム」が毎年開催されております。特別支援等でも重要視されているICT教育の実践報告や学校外の時間の有効活用（家庭学習など）、コミュニティスクール推進の提案や絵を描くことに親しむサポート（今後「感性」が重視されることが予想されることから未来の教育を見据えているものと思われます）など、子どもの発達を下支えする効果的な取り組みをコンパクトにまとめたワークショップが多数開催され、管内各地から参加した教職員、保護者に近未来を想定した知的で効果的な教育実践の提案がなされておりました。

このような費用対効果が高いと期待できるフォーラムを毎年実施できるということは、網走市教育委員会を始めとした教育関係者の意識の高さと高い内省力に基づいた具体的な実行力によるものと解釈しております。

また本フォーラムへの参加者の多さから、「(学力を含む) 学校」への意識の高い教職員・一般市民が年々増えていることが伺えます。東京農業大学教職課程履修学生も毎年大勢参加させていただいており、参加後における履修学生の教育全般への意識の向上・実践能力向上が客観的に確認されております。

上記のことは、該当地域の教育委員会のレベルが一定水準以上高くなければ成立が難しいものであり、教育委員会が率先して自らの教育力を向上させる謙虚で積極的な学びの姿勢を示していることによるものと思われます。近年、学力・学習状況調査のポイントが例年において平均より 4 ポイント以上高い小学校として網走小学校が新聞に取り上げられ、その取り組み（メンター制度）が紹介されていましたが、教育委員会の地道なサポート・現場への理解がこのような積極的な取り組みを促しているものと思われます。

「各学校における公開研究会の充実の拡充」

公開研究会を実施することによって、各学校における教員の授業指導力向上・意識変容が期待できます。その理由の一つとして、「他校の教員・保護者に自己の授業を見学してもらうことによって、他者からのクリティカルで発展的なサジェスチョンを受けることができ、子ども達にとってより効果的な授業の追求が可能となる」ことが挙げられます。しかし、実際の管内の公開研究会開催実態については、現時点において決して思わしくありません（費用対効果の面で、より効率的な運営を模索する必要があるかもしれません）。

一方網走市においては、市内小中学校 14 校全ての学校が公開研究会を実施しております。このことは、少なくともオホーツク管内市町村全体において特筆すべき事実でございます。

このような達成自体が困難な取り組みを実現させている要因の一つとして、①網走市教育委員会及び教育長の丁寧な指導と何よりも惜しみない支援によるもの、②網走市内の学校関係者の日頃からの努力、の二点が考えられます。今後、授業実践の後の研究協議の時間・公開研究会への内省がさらに充実することで、より良い発展が期待できます。

公開研究会参加例を挙げますと、東京農業大学教職課程履修学生は学年を問わず、自主的に最低 2 校以上の公開研究会に参加させていただいております。大学教員養成課程カリキュラムにおける教科教育は、どのような教育キャリアを持つ教員が担当しても「今現在・近未来を想定した現場実践」ではなく「過去の実践・模擬実践レベル」にとどまる傾向にあり、受講学生への学習効果も疑問視されております。その点、公開研究会という「現職教員による授業を見学し授業後の検討会に参加する」ことは、短時間で学生の意識・力量を高めうる費用対効果の高い貴重な機会であります。しかし、これらの取り組みは網走市教育委員会のサポートがなければ決して実現しない取り組みの一つであることは間違いなく、大学組織としても非常に貴重かつ有益なサポートを提供していただいていると強く認識しております（大学教職課程の審査において、中教審よりこれらの取り組みが高い評価を受けております）。

「多彩な学生ボランティア活動」

網走市内小中学校の教育活動にボランティアとして大学生が参加することにより、各学校の教育活動をサポートするのみならず、大学生自身の成長発達も期待出来ます。

網走市教育委員会が大学との連携活動を推し進めていることにより、学生ボランティ

ア活動を含む教育活動が年々充実しております。

また、網走市教育委員会は4年前から独自の取り組みとして「網走寺子屋学習サポート」を年6回実施しております。これは、小学1年生から3年生を対象としており、主に教職課程履修の学生と一緒に学習に向き合うスタイルを取っております。実際に毎回のサポートに参加したところ、一貫して小学生の集中の持続時間が長く、学生も普段より責任を自覚した振る舞いを見せることが確認されました。教育委員会関係者の緻密な教育環境設定により、子どもも大学生もそれぞれ安心して楽しく意欲的に活動に取り組めるようになっていることが伺えます。また、保護者からの評価がとて高く、実施回数を増やすようにとの要望が上がっております。

公立学校に関して学力が高い地域の一つである福井県（2018年度以降の学力・学習状況調査でも上位の結果）は、学力上位県となった背景の一つとして、県内の大学と小中学校が密接に連携して教育効果の向上を目指したことを挙げております。現在、網走市教育委員会は教員養成課程のあらゆる面で地域資源となり得る東京農業大学との連携を強めており、目先の結果だけにとらわれず、未来を見据えた中・長期的な視野に立って学力向上の土台強化を丁寧に進めていることが伺われます。

「地域との連携・コミュニティスクール」

前述した寺子屋学習サポートは、地域の資源・力を活用した効果的な取り組みですが、この形態はそのままコミュニティスクールのモデルとして高く評価出来ます。全国の自治体によっては「形骸化」も囁かれているコミュニティスクールについて、残念ながら網走全体の小中学校における現状は一部の学校を除いて十分な機能を果たしていると言えません。本学教職課程は、①寺子屋学習サポートを体験出来ていること、②網走市内小学校勤務である現職教員が非常勤講師として教職課程科目でチーム学校や地域との連携活動内容を報告してくださっていることにより、地域との連携が如何に必要となっているか真摯に受け止める機会をいただいております（90%が道外出身者のため、地元の自治体と比較検討がなされているようですが、これらに関して網走市教育委員会の評価はとて高いことが確認されております）。

地域や保護者の方々に学校現場を理解していただく機会でもあり、学校現場の業務増加への有効かつ具体的な対応策となり得ることからも、コミュニティスクールを機能させることが必須と思われます。既に網走市教育委員会は寺子屋学習サポートという全国的に評価される「意味のあるコミュニティスクール・チーム学校モデル」を完成させております（活動内容検証の学術論文投稿が内定しております）。網走市教育委員会の率先した活動成果により、既に本学へコミュニティスクールへの具体的な内容による協力打診をしてくださっている小学校もございます。このことから、今後は網走市教育委員会のモデルとなるこれらの活動を、より広く具体的にアナウンスすべきと考えております。

網走市教育委員会の活動は年々そのレベルを向上させており、トータルに評価すると、全国レベルに近づきつつあります。コロナウイルス対応で苦慮している学校関係者をサポートするためにも、網走市教育委員会が先頭に立って地域の人材が学校と繋がるようご配慮していただくことを提案いたします。

3 社会教育の推進

生涯学習

- ・ 様々な生涯学習サークルがオホーツク・文化交流センターで活動しており、その活動を広く紹介することや、成果発表ができる場があることは、サークルにとっての励みや新たな仲間づくりにもつながるものと考えます。毎年 11 月に行われているまなび塾フェスティバルは多くのサークルの成果発表の場として意義のある事業ですので、今後もこうした事業を進めるなど、市民の生涯学習活動の紹介に努めてもらいたいと思います。
- ・ 図書館では網走にちなんだ様々な題材を取り上げた企画展示が定期的に行われ、図書館を訪れた方が気軽に立ち寄って観覧する姿をしばしば見かけます。この企画は、地域のことを気軽に学べる機会だと考えますので、テーマを工夫しながら、引き続き取り組んでももらいたいと思います。
- ・ ブックスタート事業は、4 か月検診の際にゼロ歳児に本を贈り、乳幼児から本に親しむ習慣を促す取り組みで、読書に親しむきっかけづくりとなるものです。小さいころから読書に親しむ習慣をつけるためには、これ以降も子どもの発達段階に応じた内容の本の提供が重要だと思いますので、今後の取り組みに期待します。

社会教育

- ・ 「まなびすと講座」「てづくりすと講座」「あばしり学」「寿大学」など、子どもから高齢者まで各世代が学習できる多彩な講座が開かれており、内容も充実していると思います。特に体験型の講座は楽しみながら学ぶことができ、子どもたちの興味や関心を高めるのに有効だと思います。また、今後は社会の変化に対応できる人材育成が求められていることから、身近に課題解決を学べる講座など、内容の一層の充実を期待します。

家庭教育

- ・ これまで主に家族世代間や地域共同体で継承されていた子育てに関する学びは、核家族化など家族形態の変化や地域のつながりの希薄化に伴い、家庭教育講座へのニーズとその重要性は高まっていると感じます。この分野に関しては、子育ての知識を学び、親の不安の解消につながるような教室、講演会の開催などに意欲的に取り組んでいる姿勢が伺えます。今後は男女共同参画の視点からの取り組みに期待します。

芸術文化

- ・ 文化団体への活動支援策として、網走市文化連盟が主催する市民文化フェスティバルや市民組織による網走市民大学への助成が行われています。文化的なまちづくりの視点からこうした支援施策は重要であり、引き続き文化団体と連携した取り組みを進めてもらいたいと思います。また、今後も時代に即した文化活動を支援し、多くの市民が文化に触れることができる環境づくりを目指すことが求められます。
- ・ 令和元年度のオホーツク・文化交流センター芸術文化事業、網走市クラシック音楽鑑賞会事業について、いずれも一定の集客が図られ、多くの市民が芸術文化を楽しみながら鑑賞する様子が見られました。今後も、市民企画提案などを取り入れながら、様々な分野の芸術文化の鑑賞機会の充実が望まれます。
- ・ 芸術文化合宿誘致事業については、令和 2 年 3 月に予定されていた旭川商業高校吹奏楽局の合宿が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

が、3団体が合宿を行いました。合宿団体による市民向けの公演や市内芸術団体との交流は、単に合宿だけにとどまらない、有意義な取り組みだと考えます。

- ・ 美術館について、令和元年度は、所蔵作品の常設・特別展示のほか、6つの企画展、3つの移動展が開かれ、例年にも増して内容が充実しており、観覧者の目を楽しませてくれました。道内の若手作家の作品を紹介する新鋭の5人「萌芽」展は、ギャラリートークも開かれ、身近に現代美術の表現の多様性を鑑賞することができるよい機会であったと思います。今後も市民に美術展が浸透するような興味深い展示企画を期待します。
- ・ ギャラリートークや作品解説会は、美術について深く学び、より作品に親しむことができる機会ですので、多くの方に参加してもらうため、解説会等の企画に意欲的に取り組み、市民への周知にもあわせて努めてもらいたいと思います。
- ・ 博物館の特別企画展「網走の街並み展」は、網走の街並みが形成する過程を紹介し、当時の人々の暮らしの様子がよくわかる内容で、ポスターのデザインも当時の雰囲気を醸し出すなど、中高年を中心に市民の関心を集めた企画だと思っています。今後もこうした網走の生活史に焦点を当てた企画を期待します。

文化財

- ・ モヨロ貝塚の保護と活用については、モヨロ貝塚館の展示やガイダンスも工夫され、訪れた人が楽しめる内容になっていると感じます。また、今後もモヨロ文化について、ホームページでの紹介や新聞・雑誌などメディアを通じてPRをするとともに、市民がモヨロ貝塚について学べるような機会の創出に努めてもらいたいと思います。

スポーツ

- ・ 生活様式の変化に伴い、市民の体力低下が懸念されているところです。市民が楽しみながら健康づくりのためのスポーツに取り組めるような環境の整備に引き続き努めてもらいたいと思います。
- ・ 令和元年度はラグビーワールドカップが日本で開催されました。市内では日本代表チームの事前合宿やフィジー代表チームの直前合宿が行われ、看板や紹介パネルの設置などの取り組みにより、市民のラグビーへの認識とワールドカップへの関心は高まったと感じます。また、メディアでも網走が取り上げられ、網走の魅力为全国に伝える機会になったと思います。
- ・ 障がい者スポーツ教室等の開催は、障がいを持つ方の社会参加を促進するという点においても意義があり、引き続き充実に努めてもらいたいと思います。また、日本体育大学附属高等支援学校等との連携により、誰もがスポーツに参加して運動を楽しめるような環境づくりを期待します。

国際化対応

- ・ 英会話指導員の配置により、幼児・児童への英語の指導が実施されています。教材も発達段階に応じて独自に制作した教材を活用し、子どもたちの興味を引く内容となっています。
- ・ 「世界を旅しよう」や「ハロウィーンパーティ」は外国の文化を楽しみながら体験・理解する機会として、市内在住の外国人や市民ボランティアなどの協力を得て実施されており、参加する子どもたちの人気や評判も高く、今後の国際化に対応できる人材育成の糸口となることから継続的な取り組みを期待します。